ティーチング・ポートフォリオ（教育業績ファイル）

教員氏名	中村　佳子

主な担当科目	聴音・視唱ソルフェージュ②,オペラ演習Ⅰ②,身体表現法②,歌曲特別演習①,歌曲特別演習②,実技個人レッスン[声楽①,声楽③,声楽Ⅰ①,声楽Ⅰ②,声楽Ⅰ③,声楽Ⅰ④,音楽芸術表現実技（声楽）①②]
シラバス	次ページをご参照ください

2022年の教育目標・授業に臨む姿勢	コロナ禍にあっても学びを止めず、学生の意欲に応えられる教育の手法と工夫を考えていく。特に実技・実習科目は安心・安全に留意しつつできる限り通常通りに実施し、学生が成果を感じられるような授業を組み立てて行こうと思う。厳しい時代であっても、音楽大学に来た学生が身に着けるべき知識と技術を確実に身につけられるよう尽力したい。また本年度新入生から全員に配付したiPadの活用方法も考えて授業を行いたい。
2022年の教育に関する自己評価	昨年度に比べかなりスムーズに授業を進めることができたと思う。実技・実習科目では試演会、成果発表を全て実施することができた。この経験は学生たちから学びの喜びを引き出し、積極的に授業を進める要因となった。個人レッスンでは個々の学生との対話を増やし、各々の将来の目標に合わせて学びを深めた。本年度から担当したオペラ演習Ⅰ②では学生中心のワークショップ形式の授業の展開に務めた。生き生きとした学生の様子を見ると、この授業がコロナ禍で孤独感を抱える学生にとって新しいコミュニケーションの場になったのではないかと思う。

2022年のFD活動に関する自己評価	「多様な背景を持つ学生が持続的に学べる環境」についていくつかの学内組織で研修する機会を得た。学生生活委員会、クラス担任、学生相談、退学防止プロジェクトなど、学生に直接関わる業務を多く担当する中で、これらの研修はすべてリンクしており、積極的に問題点を共有し様々な意見を聞くことができた。 また声楽学内組織では「新しい時代の大学に求められること」として、厳しいコロナ禍と少子化を踏まえ、より魅力的なコースのあり方について話し合った。国際的に活躍できるより専門性の高い教育と、一般大学と同等に就職し社会に出られる汎用性のある教育、の両方の視点を得ることができたと思う。
授業改善のために取り入れた研修内容	FD全体研修会で学んだ「発達障がいについての理解と支援」は、担当する要配慮学生の対応に大きく役立った。大学の中で困難を感じる場面、説明・指導のアプローチを学んだことで、信頼関係が増しお互いに安心して授業を進められるようになったと感じている。またソルフェージュ学内組織では本年度全新入生に配付されたipadを使った授業の方法について学んだ。今後の課題の作成、回収などに役立てたい。

科目名－クラス名

聴音・視唱ソルフェージュ②　A

曜日時限

木 3時限

担当教員

中村　佳子

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	2～	通年	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

演奏や創作能力などを向上させるにはソルフェージュによる訓練は必要不可欠である。リズム感、フレーズ感、和声感、聴取感など、音楽を表現するための基礎となる能力を養うことがソルフェージュを学ぶ目的である。この授業では聴音と視唱の訓練により、ソルフェージュ能力を養成する。

学修成果

"この授業では、聴音（書き取り）と視唱（歌うことを通して（1）音程、リズム、音階などの感覚、（2）読譜、記譜、旋律暗記などの能力の養成）をテーマとし、単旋律、高音部譜表2声、大譜表2声、4声体和声の書き取り及び視唱の中級程度の能力を身につけることができる。"

授業展開と内容

第1回　聴音と視唱の学修方法および授業ガイダンス

第2回　シンコペーションとタイを多く含む長調、短調の単旋律聴音の導入、および視唱練習としてレガートに歌う練習を「トスティ50番」No.26を中心として行う

第3回　借用和音を多く含む多く含む大譜表の２声聴音の導入、およびレガートとメッツァヴォーチェに歌う練習を「トスティ50番」No.27を中心としてを行う

第4回　変化音を多く含む高音部譜表の２声聴音の導入、およびタイと三連符の視唱練習を「トスティ50番」No.28を中心として行う

第5回　三和音、七の和音を中心とした４声体和声（開離）聴音の導入、およびタイとアクセントの視唱練習を「トスティ50番」No.29を中心として行う

第6回　一時的な転調を含む長調、短調の単旋律聴音の基礎練習、およびレガートなフレーズで歌う練習を「トスティ50番」No.30を中心として行う

第7回　借用和音を多く含む大譜表の２声聴音の基礎練習、および三連符と16分音符の視唱練習を「トスティ50番」No.31を中心として行う

第8回　高音部譜表の２声聴音の基礎練習、および六連符の視唱練習を「トスティ50番」No.32を中心として行う

第9回　４声体和声（開離）聴音の基礎練習、および反復音階の視唱練習を「トスティ50番」No.33を中心として行う

第10回　近親転調を含む長調、短調の単旋律聴音の応用練習、および長いフレーズで歌う練習を「トスティ50番」No.34を中心として行う

第11回　高音部譜表の２声聴音の応用練習、および軽やかなパッセージの視唱練習を「トスティ50番」No.35を中心として行う

第12回　大譜表の２声聴音の応用練習、および付点と半音階の視唱練習を「トスティ50番」No.36を中心として行う

第13回　４声体和声（開離）聴音の応用練習、および修飾音の視唱練習を「トスティ50番」No.37を中心として行う

第14回　単旋律・２声・４声体和声（開離）の聴音、および「トスティ50番」No.26～No.37を復習する

第15回　前期授業内容による総合演習

第16回　前期で学修した内容を含む聴音、およびシンコペーションの視唱練習を「トスティ50番」No.38を中心として行う

第17回　長調、短調の単旋律聴音（複雑なリズム・変化音・転調を含む）、およびフィオリトゥーラの視唱練習を「トスティ50番」No.39を中心として行う

第18回　転調を含む大譜表の２声聴音、および半音階とグルッペットによる視唱練習を「トスティ50番」No.40を中心として行う

第19回　高音部譜表の２声聴音（複雑なリズム・変化音による）、およびレチタティーヴォの視唱練習を「トスティ50番」No.41を中心として行う

第20回　ドッペルドミナントの諸和音を含む４声体和声（開離）聴音、およびカヴァティーナ風の視唱練習を「トスティ50番」No.42を中心として行う

第21回　遠隔調への転調を伴った長調、短調の単旋律聴音、およびスケールの練習を「トスティ50番」No.43を中心として視唱練習を行う

第22回　大譜表の２声聴音（複雑なリズム・変化音・転調を含む）、およびスケールと回音の視唱練習を「トスティ50番」No.44を中心として行う

第23回　高音部譜表の２声聴音（不規則なリズム、タイを含む）、およびマルカート・スタッカートの視唱練習を「トスティ50番」No.45を中心として行う

第24回　副属七の諸和音を多く含む４声体和声（開離）聴音、およびアルペッジョの視唱練習を「トスティ50番」No.46を中心として行う

第25回　長調、短調の単旋律聴音（五連符やタイ、遠隔調への転調を伴う）、およびトリルの視唱練習を「トスティ50番」No.47を中心として行う

第26回　大譜表の２声聴音（変拍子を含む）の総括的練習、および半音階の視唱練習を「トスティ50番」No.48を中心として行う

第27回　高音部譜表の２声聴音の総括的練習、および装飾的パッセージの視唱練習を「トスティ50番」No.49を中心として行う

第28回　ナポリの六等の変化和音、副属七の諸和音を含めた４声体和声（開離）聴音、および歌とピアノの対話による視唱練習を「トスティ50番」No.50を中心として行う

第29回　総合的な内容を盛り込んだ聴音、および「トスティ50番」No.38～50を復習する

第30回　後期試験内容に即した演習

履修上の注意

クラス分けを行うので指定されたクラスで受講すること

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

毎回の予習、復習、反復練習を十分に行うこと。視唱は楽譜を見るだけでなく、きちんと声を出して練習すること。聴音は授業内で実習した課題を鍵盤楽器などを用いて復習すること（120分/週）。15回目に行う総合演習の課題は、授業内、または後期の最初に採点結果に基づくアドバイスをそれぞれに対して行う。また毎授業内でも課題に対する個別アドバイスを行う。

教科書・参考書

「トスティ50番」中声用　畑中良輔他　（全音楽譜出版社）

科目名－クラス名

聴音・視唱ソルフェージュ②　B

曜日時限

木 3時限

担当教員

中村　佳子

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	2～	通年	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

演奏や創作能力などを向上させるにはソルフェージュによる訓練は必要不可欠である。リズム感、フレーズ感、和声感、聴取感など、音楽を表現するための基礎となる能力を養うことがソルフェージュを学ぶ目的である。この授業では聴音と視唱の訓練により、ソルフェージュ能力を養成する。

学修成果

"この授業では、聴音（書き取り）と視唱（歌うことを通して（1）音程、リズム、音階などの感覚、（2）読譜、記譜、旋律暗記などの能力の養成）をテーマとし、単旋律、高音部譜表2声、大譜表2声、4声体和声の書き取り及び視唱の中級程度の能力を身につけることができる。"

授業展開と内容

第1回　聴音と視唱の学修方法および授業ガイダンス

第2回　シンコペーションとタイを多く含む長調、短調の単旋律聴音の導入、および視唱練習としてレガートに歌う練習を「トスティ50番」No.26を中心として行う

第3回　借用和音を多く含む多く含む大譜表の２声聴音の導入、およびレガートとメッツァヴォーチェに歌う練習を「トスティ50番」No.27を中心としてを行う

第4回　変化音を多く含む高音部譜表の２声聴音の導入、およびタイと三連符の視唱練習を「トスティ50番」No.28を中心として行う

第5回　三和音、七の和音を中心とした４声体和声（開離）聴音の導入、およびタイとアクセントの視唱練習を「トスティ50番」No.29を中心として行う

第6回　一時的な転調を含む長調、短調の単旋律聴音の基礎練習、およびレガートなフレーズで歌う練習を「トスティ50番」No.30を中心として行う

第7回　借用和音を多く含む大譜表の２声聴音の基礎練習、および三連符と16分音符の視唱練習を「トスティ50番」No.31を中心として行う

第8回　高音部譜表の２声聴音の基礎練習、および六連符の視唱練習を「トスティ50番」No.32を中心として行う

第9回　４声体和声（開離）聴音の基礎練習、および反復音階の視唱練習を「トスティ50番」No.33を中心として行う

第10回　近親転調を含む長調、短調の単旋律聴音の応用練習、および長いフレーズで歌う練習を「トスティ50番」No.34を中心として行う

第11回　高音部譜表の２声聴音の応用練習、および軽やかなパッセージの視唱練習を「トスティ50番」No.35を中心として行う

第12回　大譜表の２声聴音の応用練習、および付点と半音階の視唱練習を「トスティ50番」No.36を中心として行う

第13回　４声体和声（開離）聴音の応用練習、および修飾音の視唱練習を「トスティ50番」No.37を中心として行う

第14回　単旋律・２声・４声体和声（開離）の聴音、および「トスティ50番」No.26～No.37を復習する

第15回　前期授業内容による総合演習

第16回　前期で学修した内容を含む聴音、およびシンコペーションの視唱練習を「トスティ50番」No.38を中心として行う

第17回　長調、短調の単旋律聴音（複雑なリズム・変化音・転調を含む）、およびフィオリトゥーラの視唱練習を「トスティ50番」No.39を中心として行う

第18回　転調を含む大譜表の２声聴音、および半音階とグルッペットによる視唱練習を「トスティ50番」No.40を中心として行う

第19回　高音部譜表の２声聴音（複雑なリズム・変化音による）、およびレチタティーヴォの視唱練習を「トスティ50番」No.41を中心として行う

第20回　ドッペルドミナントの諸和音を含む４声体和声（開離）聴音、およびカヴァティーナ風の視唱練習を「トスティ50番」No.42を中心として行う

第21回　遠隔調への転調を伴った長調、短調の単旋律聴音、およびスケールの練習を「トスティ50番」No.43を中心として視唱練習を行う

第22回　大譜表の２声聴音（複雑なリズム・変化音・転調を含む）、およびスケールと回音の視唱練習を「トスティ50番」No.44を中心として行う

第23回　高音部譜表の２声聴音（不規則なリズム、タイを含む）、およびマルカート・スタッカートの視唱練習を「トスティ50番」No.45を中心として行う

第24回　副属七の諸和音を多く含む４声体和声（開離）聴音、およびアルペッジョの視唱練習を「トスティ50番」No.46を中心として行う

第25回　長調、短調の単旋律聴音（五連符やタイ、遠隔調への転調を伴う）、およびトリルの視唱練習を「トスティ50番」No.47を中心として行う

第26回　大譜表の２声聴音（変拍子を含む）の総括的練習、および半音階の視唱練習を「トスティ50番」No.48を中心として行う

第27回　高音部譜表の２声聴音の総括的練習、および装飾的パッセージの視唱練習を「トスティ50番」No.49を中心として行う

第28回　ナポリの六等の変化和音、副属七の諸和音を含めた４声体和声（開離）聴音、および歌とピアノの対話による視唱練習を「トスティ50番」No.50を中心として行う

第29回　総合的な内容を盛り込んだ聴音、および「トスティ50番」No.38～50を復習する

第30回　後期試験内容に即した演習

履修上の注意

クラス分けを行うので指定されたクラスで受講すること

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

毎回の予習、復習、反復練習を十分に行うこと。視唱は楽譜を見るだけでなく、きちんと声を出して練習すること。聴音は授業内で実習した課題を鍵盤楽器などを用いて復習すること（120分/週）。15回目に行う総合演習の課題は、授業内、または後期の最初に採点結果に基づくアドバイスをそれぞれに対して行う。また毎授業内でも課題に対する個別アドバイスを行う。

教科書・参考書

「トスティ50番」中声用　畑中良輔他　（全音楽譜出版社）

科目名－クラス名

聴音・視唱ソルフェージュ②　A

曜日時限

木 3時限

担当教員

中村　佳子

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	2～	通年	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

演奏や創作能力などを向上させるにはソルフェージュによる訓練は必要不可欠である。リズム感、フレーズ感、和声感、聴取感など、音楽を表現するための基礎となる能力を養うことがソルフェージュを学ぶ目的である。この授業では聴音と視唱の訓練により、ソルフェージュ能力を養成する。

学修成果

"この授業では、聴音（書き取り）と視唱（歌うことを通して（1）音程、リズム、音階などの感覚、（2）読譜、記譜、旋律暗記などの能力の養成）をテーマとし、単旋律、高音部譜表2声、大譜表2声、4声体和声の書き取り及び視唱の中級程度の能力を身につけることができる。"

授業展開と内容

第1回　聴音と視唱の学修方法および授業ガイダンス

第2回　シンコペーションとタイを多く含む長調、短調の単旋律聴音の導入、および視唱練習としてレガートに歌う練習を「トスティ50番」No.26を中心として行う

第3回　借用和音を多く含む多く含む大譜表の２声聴音の導入、およびレガートとメッツァヴォーチェに歌う練習を「トスティ50番」No.27を中心としてを行う

第4回　変化音を多く含む高音部譜表の２声聴音の導入、およびタイと三連符の視唱練習を「トスティ50番」No.28を中心として行う

第5回　三和音、七の和音を中心とした４声体和声（開離）聴音の導入、およびタイとアクセントの視唱練習を「トスティ50番」No.29を中心として行う

第6回　一時的な転調を含む長調、短調の単旋律聴音の基礎練習、およびレガートなフレーズで歌う練習を「トスティ50番」No.30を中心として行う

第7回　借用和音を多く含む大譜表の２声聴音の基礎練習、および三連符と16分音符の視唱練習を「トスティ50番」No.31を中心として行う

第8回　高音部譜表の２声聴音の基礎練習、および六連符の視唱練習を「トスティ50番」No.32を中心として行う

第9回　４声体和声（開離）聴音の基礎練習、および反復音階の視唱練習を「トスティ50番」No.33を中心として行う

第10回　近親転調を含む長調、短調の単旋律聴音の応用練習、および長いフレーズで歌う練習を「トスティ50番」No.34を中心として行う

第11回　高音部譜表の２声聴音の応用練習、および軽やかなパッセージの視唱練習を「トスティ50番」No.35を中心として行う

第12回　大譜表の２声聴音の応用練習、および付点と半音階の視唱練習を「トスティ50番」No.36を中心として行う

第13回　４声体和声（開離）聴音の応用練習、および修飾音の視唱練習を「トスティ50番」No.37を中心として行う

第14回　単旋律・２声・４声体和声（開離）の聴音、および「トスティ50番」No.26～No.37を復習する

第15回　前期授業内容による総合演習

第16回　前期で学修した内容を含む聴音、およびシンコペーションの視唱練習を「トスティ50番」No.38を中心として行う

第17回　長調、短調の単旋律聴音（複雑なリズム・変化音・転調を含む）、およびフィオリトゥーラの視唱練習を「トスティ50番」No.39を中心として行う

第18回　転調を含む大譜表の２声聴音、および半音階とグルッペットによる視唱練習を「トスティ50番」No.40を中心として行う

第19回　高音部譜表の２声聴音（複雑なリズム・変化音による）、およびレチタティーヴォの視唱練習を「トスティ50番」No.41を中心として行う

第20回　ドッペルドミナントの諸和音を含む４声体和声（開離）聴音、およびカヴァティーナ風の視唱練習を「トスティ50番」No.42を中心として行う

第21回　遠隔調への転調を伴った長調、短調の単旋律聴音、およびスケールの練習を「トスティ50番」No.43を中心として視唱練習を行う

第22回　大譜表の２声聴音（複雑なリズム・変化音・転調を含む）、およびスケールと回音の視唱練習を「トスティ50番」No.44を中心として行う

第23回　高音部譜表の２声聴音（不規則なリズム、タイを含む）、およびマルカート・スタッカートの視唱練習を「トスティ50番」No.45を中心として行う

第24回　副属七の諸和音を多く含む４声体和声（開離）聴音、およびアルペッジョの視唱練習を「トスティ50番」No.46を中心として行う

第25回　長調、短調の単旋律聴音（五連符やタイ、遠隔調への転調を伴う）、およびトリルの視唱練習を「トスティ50番」No.47を中心として行う

第26回　大譜表の２声聴音（変拍子を含む）の総括的練習、および半音階の視唱練習を「トスティ50番」No.48を中心として行う

第27回　高音部譜表の２声聴音の総括的練習、および装飾的パッセージの視唱練習を「トスティ50番」No.49を中心として行う

第28回　ナポリの六等の変化和音、副属七の諸和音を含めた４声体和声（開離）聴音、および歌とピアノの対話による視唱練習を「トスティ50番」No.50を中心として行う

第29回　総合的な内容を盛り込んだ聴音、および「トスティ50番」No.38～50を復習する

第30回　後期試験内容に即した演習

履修上の注意

クラス分けを行うので指定されたクラスで受講すること

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

毎回の予習、復習、反復練習を十分に行うこと。視唱は楽譜を見るだけでなく、きちんと声を出して練習すること。聴音は授業内で実習した課題を鍵盤楽器などを用いて復習すること（120分/週）。15回目に行う総合演習の課題は、授業内、または後期の最初に採点結果に基づくアドバイスをそれぞれに対して行う。また毎授業内でも課題に対する個別アドバイスを行う。

教科書・参考書

「トスティ50番」中声用　畑中良輔他　（全音楽譜出版社）

科目名－クラス名

聴音・視唱ソルフェージュ②　B

曜日時限

木 3時限

担当教員

中村　佳子

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	2～	通年	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

演奏や創作能力などを向上させるにはソルフェージュによる訓練は必要不可欠である。リズム感、フレーズ感、和声感、聴取感など、音楽を表現するための基礎となる能力を養うことがソルフェージュを学ぶ目的である。この授業では聴音と視唱の訓練により、ソルフェージュ能力を養成する。

学修成果

"この授業では、聴音（書き取り）と視唱（歌うことを通して（1）音程、リズム、音階などの感覚、（2）読譜、記譜、旋律暗記などの能力の養成）をテーマとし、単旋律、高音部譜表2声、大譜表2声、4声体和声の書き取り及び視唱の中級程度の能力を身につけることができる。"

授業展開と内容

第1回　聴音と視唱の学修方法および授業ガイダンス

第2回　シンコペーションとタイを多く含む長調、短調の単旋律聴音の導入、および視唱練習としてレガートに歌う練習を「トスティ50番」No.26を中心として行う

第3回　借用和音を多く含む多く含む大譜表の２声聴音の導入、およびレガートとメッツァヴォーチェに歌う練習を「トスティ50番」No.27を中心としてを行う

第4回　変化音を多く含む高音部譜表の２声聴音の導入、およびタイと三連符の視唱練習を「トスティ50番」No.28を中心として行う

第5回　三和音、七の和音を中心とした４声体和声（開離）聴音の導入、およびタイとアクセントの視唱練習を「トスティ50番」No.29を中心として行う

第6回　一時的な転調を含む長調、短調の単旋律聴音の基礎練習、およびレガートなフレーズで歌う練習を「トスティ50番」No.30を中心として行う

第7回　借用和音を多く含む大譜表の２声聴音の基礎練習、および三連符と16分音符の視唱練習を「トスティ50番」No.31を中心として行う

第8回　高音部譜表の２声聴音の基礎練習、および六連符の視唱練習を「トスティ50番」No.32を中心として行う

第9回　４声体和声（開離）聴音の基礎練習、および反復音階の視唱練習を「トスティ50番」No.33を中心として行う

第10回　近親転調を含む長調、短調の単旋律聴音の応用練習、および長いフレーズで歌う練習を「トスティ50番」No.34を中心として行う

第11回　高音部譜表の２声聴音の応用練習、および軽やかなパッセージの視唱練習を「トスティ50番」No.35を中心として行う

第12回　大譜表の２声聴音の応用練習、および付点と半音階の視唱練習を「トスティ50番」No.36を中心として行う

第13回　４声体和声（開離）聴音の応用練習、および修飾音の視唱練習を「トスティ50番」No.37を中心として行う

第14回　単旋律・２声・４声体和声（開離）の聴音、および「トスティ50番」No.26～No.37を復習する

第15回　前期授業内容による総合演習

第16回　前期で学修した内容を含む聴音、およびシンコペーションの視唱練習を「トスティ50番」No.38を中心として行う

第17回　長調、短調の単旋律聴音（複雑なリズム・変化音・転調を含む）、およびフィオリトゥーラの視唱練習を「トスティ50番」No.39を中心として行う

第18回　転調を含む大譜表の２声聴音、および半音階とグルッペットによる視唱練習を「トスティ50番」No.40を中心として行う

第19回　高音部譜表の２声聴音（複雑なリズム・変化音による）、およびレチタティーヴォの視唱練習を「トスティ50番」No.41を中心として行う

第20回　ドッペルドミナントの諸和音を含む４声体和声（開離）聴音、およびカヴァティーナ風の視唱練習を「トスティ50番」No.42を中心として行う

第21回　遠隔調への転調を伴った長調、短調の単旋律聴音、およびスケールの練習を「トスティ50番」No.43を中心として視唱練習を行う

第22回　大譜表の２声聴音（複雑なリズム・変化音・転調を含む）、およびスケールと回音の視唱練習を「トスティ50番」No.44を中心として行う

第23回　高音部譜表の２声聴音（不規則なリズム、タイを含む）、およびマルカート・スタッカートの視唱練習を「トスティ50番」No.45を中心として行う

第24回　副属七の諸和音を多く含む４声体和声（開離）聴音、およびアルペッジョの視唱練習を「トスティ50番」No.46を中心として行う

第25回　長調、短調の単旋律聴音（五連符やタイ、遠隔調への転調を伴う）、およびトリルの視唱練習を「トスティ50番」No.47を中心として行う

第26回　大譜表の２声聴音（変拍子を含む）の総括的練習、および半音階の視唱練習を「トスティ50番」No.48を中心として行う

第27回　高音部譜表の２声聴音の総括的練習、および装飾的パッセージの視唱練習を「トスティ50番」No.49を中心として行う

第28回　ナポリの六等の変化和音、副属七の諸和音を含めた４声体和声（開離）聴音、および歌とピアノの対話による視唱練習を「トスティ50番」No.50を中心として行う

第29回　総合的な内容を盛り込んだ聴音、および「トスティ50番」No.38～50を復習する

第30回　後期試験内容に即した演習

履修上の注意

クラス分けを行うので指定されたクラスで受講すること

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

毎回の予習、復習、反復練習を十分に行うこと。視唱は楽譜を見るだけでなく、きちんと声を出して練習すること。聴音は授業内で実習した課題を鍵盤楽器などを用いて復習すること（120分/週）。15回目に行う総合演習の課題は、授業内、または後期の最初に採点結果に基づくアドバイスをそれぞれに対して行う。また毎授業内でも課題に対する個別アドバイスを行う。

教科書・参考書

「トスティ50番」中声用　畑中良輔他　（全音楽譜出版社）

科目名－クラス名

オペラ演習Ⅰ②

曜日時限

火 2時限

担当教員

中村　佳子

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	2～	通年	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	30	0	0	70	0	100

教育到達目標と概要

この科目は本学声楽コース最大の特色である「オペラ演習」の２年目の授業である。オペラ演習Ⅰ①で培った内容を基に(１)オペラの合唱シーンを体験することで、演じながら歌うことの楽しさを知り、オペラにより深い興味を抱くこと、(２)音楽表現と身体表現を融合させた歌唱表現の向上に役立てていくこと、(３）他者との共同作業によりひとつのシーンを作りあげることで、アンサンブル能力、コミュニケーション能力を育むこと、を目的とする。
G.DONIZETTI作曲「L'elisir d'amore（愛の妙薬）」W.A.;MOZART作曲「Le nozze di Figaro（フィガロの結婚）」「Don Giovanni（ドン・ジョヴァンニ）」などから、合唱曲を取り上げて勉強する。授業の中ではグループワークと発表を行い、創造力、表現力、コミュニケーション能力、チームワークができる力を向上させていく。

学修成果

①歌いながら動く舞台表現の基本を身に着けることができる。
②演技をすることによって自己表現の可能性を拡げ、歌唱表現に役立てることができる。
③ひとつのシーンをグループで作り上げることによって、コミュニケーション能力や、チームワークでの責任感を育むことができる。

授業展開と内容

第1回
・この授業について（目標、概要、進め方等）
・「L'elisir d'amore（愛の妙薬)」より "Bel conforto al mietitore"　歌唱練習（譜読み）
・グループ分けと役割分担

第2回
・「L'elisir d'amore（愛の妙薬)」より "Bel conforto al mietitore"　歌唱練習（正確な音程、リズム、ハーモニー）
・グループワーク（ストーリーとシーンを知る）

第3回
・「L'elisir d'amore（愛の妙薬)」より "Bel conforto al mietitore"　歌唱練習（音楽表現、暗譜）
・グループワーク（シーンの動きを考える）

第4回
・「L'elisir d'amore（愛の妙薬)」より "Bel conforto al mietitore"　歌唱練習（指揮を見て動く）
・グループワーク（動きの練習）

第5回
・「L'elisir d'amore（愛の妙薬)」より "Bel conforto al mietitore" 仕上げ
・グループ発表、意見交換

第6回
・「L'elisir d'amore（愛の妙薬)」より "Che vuol dire codesta suonata?" 歌唱練習（譜読み）
・グループ分けと役割分担

第7回
・「L'elisir d'amore（愛の妙薬)」より"Che vuol dire codesta suonata?" 歌唱練習（正確な音程、リズム、ハーモニー）
・グループワーク（ストーリーとシーンを知る）

第8回
・「L'elisir d'amore（愛の妙薬)」より"Che vuol dire codesta suonata?" 歌唱練習（音楽表現、暗譜）
・グループワーク（シーンの動きを考える）

第9回
・「L'elisir d'amore（愛の妙薬)」より"Che vuol dire codesta suonata?" 歌唱練習（指揮を見て動く）
・グループワーク（動きの練習）

第10回
・「L'elisir d'amore（愛の妙薬)」より"Che vuol dire codesta suonata?" 仕上げ
・グループ発表、意見交換

第11回
・「L'elisir d'amore（愛の妙薬)」より"Cantiamo！" 歌唱練習（譜読み）
・グループ分けと役割分担

第12回
・「L'elisir d'amore（愛の妙薬)」より"Cantiamo！" 歌唱練習（正確な音程、リズム、ハーモニー）
・グループワーク（ストーリーとシーンを知る）

第13回
・「L'elisir d'amore（愛の妙薬)」より"Cantiamo！" 歌唱練習（音楽表現、暗譜）
・グループワーク（シーンの動きを考える）

第14回
・「L'elisir d'amore（愛の妙薬)」より"Cantiamo！" 歌唱練習（指揮を見て動く）
・グループワーク（動きの練習）

第15回
・「L'elisir d'amore（愛の妙薬)」より"Cantiamo！" 仕上げ
・グループ発表、意見交換

第16回
・「Le nozze di Figaro（フィガロの結婚）」より"Giovani liete ～Amanti costanti"歌唱練習（譜読み）
・グループ分けと役割分担

第17回
・「Le nozze di Figaro（フィガロの結婚）」より"Giovani liete ～Amanti costanti" 歌唱練習（正確な音程、リズム、ハーモニー）
・グループワーク（ストーリーとシーンを知る）

第18回	・「Le nozze di Figaro（フィガロの結婚）」より"Giovani liete ～Amanti costanti"　歌唱練習（音楽表現、暗譜） ・グループワーク（シーンの動きを考える）
第19回	・「Le nozze di Figaro（フィガロの結婚）」より"Giovani liete ～Amanti costanti"　歌唱練習（指揮を見て動く） ・グループワーク（動きの練習）
第20回	・「Le nozze di Figaro（フィガロの結婚）」より"Giovani liete ～Amanti costanti" 仕上げ ・グループ発表、意見交換
第21回	・「Don Giovanni（ドン・ジョヴァンニ）」より"Giovinette che fate all'amore" 歌唱練習（譜読み） ・グループ分けと役割分担
第22回	・「Don Giovanni（ドン・ジョヴァンニ）」より"Giovinette che fate all'amore" 歌唱練習（正確な音程、リズム、ハーモニー） ・グループワーク（ストーリーとシーンを知る）
第23回	・「Don Giovanni（ドン・ジョヴァンニ）」より"Giovinette che fate all'amore" 歌唱練習（音楽表現、暗譜） ・グループワーク（シーンの動きを考える）
第24回	・「Don Giovanni（ドン・ジョヴァンニ）」より"Giovinette che fate all'amore"　歌唱練習（指揮を見て動く） ・グループワーク（動きの練習）
第25回	・「Don Giovanni（ドン・ジョヴァンニ）」より"Giovinette che fate all'amore" 仕上げ ・グループ発表、意見交換
第26回	・「L'elisir d'amore（愛の妙薬)」より"Udite, udite o lustici"　歌唱練習（譜読み） ・グループ分けと役割分担
第27回	・「L'elisir d'amore（愛の妙薬)」より"Udite, udite o lustici"　歌唱練習（正確な音程、リズム、ハーモニー） ・グループワーク（ストーリーとシーンを知る）
第28回	・「L'elisir d'amore（愛の妙薬)」より"Udite, udite o lustici"　歌唱練習（音楽表現、暗譜） ・グループワーク（シーンの動きを考える）
第29回	・「L'elisir d'amore（愛の妙薬)」より"Udite, udite o lustici"　　歌唱練習（指揮を見て動く） ・グループワーク（動きの練習）
第30回	・「L'elisir d'amore（愛の妙薬)」より"Udite, udite o lustici"　仕上げ ・成果発表ゲネプロ　意見交換

履修上の注意

・授業展開は進行の目安であり、練習では到達度により内容が前後したり戻ったりすることを理解して臨んでください。
・授業内で発表することが「成果発表」となるので積極的に発表するようにしてください。
・立ち稽古は役柄にあった動きやすい服装と靴を用意してください。
・コロナ感染の状況によりマスク、フェイスシールドの着用の指示をします。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

・グループワークが円滑に進むよう、事前の譜読み・次回までの下調べをきちんと行うこと。（120分/週）
・DVD等の視聴覚資料を活用するなど、考え得る方法で積極的に知識と発想を拡げること。（120分/週）
・毎回のグループ発表で意見交換とフィードバックを行います。

教科書・参考書

楽譜、教科書等の指示は授業内で行います。

科目名－クラス名

身体表現法②

曜日時限

火 2時限

担当教員

中村　佳子

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	2～	通年	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	30	0	0	70	0	100

教育到達目標と概要

この科目は短大声楽コース「身体表現法①」に続く、舞台表現の基礎を学ぶ授業である。①で培った内容を基に(１)オペラの合唱シーンを体験することで、演じながら歌うことの楽しさを知ること、(２)音楽表現と身体表現を融合させた歌唱表現の向上に役立てていくこと、(３）他者との共同作業によりひとつのシーンを作りあげることで、アンサンブル能力、コミュニケーション能力を育むこと、を目的とする。
G.DONIZETTI作曲「L'elisir d'amore（愛の妙薬）」W.A.;MOZART作曲「Le nozze di F

学修成果

①歌いながら動くことで身体表現の基本を身に着けることができる。
②演技をすることによって自己表現の可能性を拡げ、歌唱表現に役立てることができる。
③ひとつのシーンをグループで作り上げることによって、コミュニケーション能力や、チームワークでの責任感を育むことができる。

授業展開と内容

第1回
・この授業について（目標、概要、進め方等）
・「L'elisir d'amore（愛の妙薬)」より "Bel conforto al mietitore"　歌唱練習（譜読み）
・グループ分けと役割分担

第2回
・「L'elisir d'amore（愛の妙薬)」より "Bel conforto al mietitore"　歌唱練習（正確な音程、リズム、ハーモニー）
・グループワーク（ストーリーとシーンを知る）

第3回
・「L'elisir d'amore（愛の妙薬)」より "Bel conforto al mietitore"　歌唱練習（音楽表現、暗譜）
・グループワーク（シーンの動きを考える）

第4回
・「L'elisir d'amore（愛の妙薬)」より "Bel conforto al mietitore"　歌唱練習（指揮を見て動く）
・グループワーク（動きの練習）

第5回
・「L'elisir d'amore（愛の妙薬)」より "Bel conforto al mietitore" 仕上げ
・グループ発表、意見交換

第6回
・「L'elisir d'amore（愛の妙薬)」より "Che vuol dire codesta suonata?" 歌唱練習（譜読み）
・グループ分けと役割分担

第7回
・「L'elisir d'amore（愛の妙薬)」より"Che vuol dire codesta suonata?" 歌唱練習（正確な音程、リズム、ハーモニー）
・グループワーク（ストーリーとシーンを知る）

第8回
・「L'elisir d'amore（愛の妙薬)」より"Che vuol dire codesta suonata?" 歌唱練習（音楽表現、暗譜）
・グループワーク（シーンの動きを考える）

第9回
・「L'elisir d'amore（愛の妙薬)」より"Che vuol dire codesta suonata?" 歌唱練習（指揮を見て動く）
・グループワーク（動きの練習）

第10回
・「L'elisir d'amore（愛の妙薬)」より"Che vuol dire codesta suonata?" 仕上げ
・グループ発表、意見交換

第11回
・「L'elisir d'amore（愛の妙薬)」より"Cantiamo！" 歌唱練習（譜読み）
・グループ分けと役割分担

第12回
・「L'elisir d'amore（愛の妙薬)」より"Cantiamo！"　歌唱練習（正確な音程、リズム、ハーモニー）
・グループワーク（ストーリーとシーンを知る）

第13回
・「L'elisir d'amore（愛の妙薬)」より"Cantiamo！" 歌唱練習（音楽表現、暗譜）
・グループワーク（シーンの動きを考える）

第14回
・「L'elisir d'amore（愛の妙薬)」より"Cantiamo！" 歌唱練習（指揮を見て動く）
・グループワーク（動きの練習）

第15回
・「L'elisir d'amore（愛の妙薬)」より"Cantiamo！" 仕上げ
・グループ発表、意見交換

第16回
・「Le nozze di Figaro（フィガロの結婚）」より"Giovani liete ～Amanti costanti"歌唱練習（譜読み）
・グループ分けと役割分担

第17回
・「Le nozze di Figaro（フィガロの結婚）」より"Giovani liete ～Amanti costanti" 歌唱練習（正確な音程、リズム、ハーモニー）
・グループワーク（ストーリーとシーンを知る）

第18回
・「Le nozze di Figaro（フィガロの結婚）」より"Giovani liete ～Amanti costanti"　歌唱練習（音楽表現、暗譜）

	・グループワーク（シーンの動きを考える）
第19回	・「Le nozze di Figaro（フィガロの結婚）」より"Giovani liete ～Amanti costanti"　歌唱練習（指揮を見て動く） ・グループワーク（動きの練習）
第20回	・「Le nozze di Figaro（フィガロの結婚）」より"Giovani liete ～Amanti costanti" 仕上げ ・グループ発表、意見交換
第21回	・「Don Giovanni（ドン・ジョヴァンニ）」より"Giovinette che fate all'amore" 歌唱練習（譜読み） ・グループ分けと役割分担
第22回	・「Don Giovanni（ドン・ジョヴァンニ）」より"Giovinette che fate all'amore" 歌唱練習（正確な音程、リズム、ハーモニー） ・グループワーク（ストーリーとシーンを知る）
第23回	・「Don Giovanni（ドン・ジョヴァンニ）」より"Giovinette che fate all'amore" 歌唱練習（音楽表現、暗譜） ・グループワーク（シーンの動きを考える）
第24回	・「Don Giovanni（ドン・ジョヴァンニ）」より"Giovinette che fate all'amore"　歌唱練習（指揮を見て動く） ・グループワーク（動きの練習）
第25回	・「Don Giovanni（ドン・ジョヴァンニ）」より"Giovinette che fate all'amore" 仕上げ ・グループ発表、意見交換
第26回	・「L'elisir d'amore（愛の妙薬)」より"Udite, udite o lustici"　歌唱練習（譜読み） ・グループ分けと役割分担
第27回	・「L'elisir d'amore（愛の妙薬)」より"Udite, udite o lustici"　歌唱練習（正確な音程、リズム、ハーモニー） ・グループワーク（ストーリーとシーンを知る）
第28回	・「L'elisir d'amore（愛の妙薬)」より"Udite, udite o lustici"　歌唱練習（音楽表現、暗譜） ・グループワーク（シーンの動きを考える）
第29回	・「L'elisir d'amore（愛の妙薬)」より"Udite, udite o lustici"　　歌唱練習（指揮を見て動く） ・グループワーク（動きの練習）
第30回	・「L'elisir d'amore（愛の妙薬)」より"Udite, udite o lustici"　仕上げ ・成果発表ゲネプロ　意見交換

履修上の注意

・授業展開は進行の目安であり、練習では到達度により内容が前後したり戻ったりすることを理解して臨んでください。
・授業内で発表することが「成果発表」となるので積極的に発表するようにしてください。
・立ち稽古は役柄にあった動きやすい服装と靴を用意してください。
・コロナ感染の状況によりマスク、フェイスシールドの着用の指示をします。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

・グループワークが円滑に進むよう、事前の譜読み・次回までの下調べをきちんと行うこと。（120分/週）
・DVD等の視聴覚資料を活用するなど、考え得る方法で積極的に知識と発想を拡げること。（120分/週）
・毎回のグループ発表で意見交換とフィードバックを行います。

教科書・参考書

楽譜、教科書等の指示は授業内で行います。

科目名－クラス名

歌曲特別演習①

曜日時限

金 5時限

金 6時限

担当教員

中村　佳子

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	1～	通年	4

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	0	0	100	0	100

教育到達目標と概要

声楽家として詩と音楽双方からの研究を通して、歌曲（伊・仏・独・西・日）各言語の特性を知り、その国の文化、芸術を踏まえ歌唱法を研究していきます。１年次はよく演奏される作品を取り上げ各言語に対応できる演奏法を身につけ、作品研究を通してレベルの高い歌唱技能を修得する。

学修成果

各言語（伊・仏・独・西・日）詩の型を知り、深く味わうことができる。歌唱における各言語の明瞭な発音、発語を専門の各担当教員が指導し様々な作曲様式や民族性の魅力を指導し、レベルの高い歌唱が修得できる。

授業展開と内容

第1回　イタリア歌曲 担当教員ガイダンス(担当教員 鈴木）１年間の授業展開、演習上の注意点を理解する。フランス歌曲 担当教員ガイダンス(担当教員 大森）１年間の授業展開、演習上の注意点を理解する。

第2回　イタリア歌曲 発音の概要を把握 ベルカント作品研究① 発音の概要を把握し、ベルカント歌曲作品により演習上の注意点を理解する。フランス歌曲 発音の概要を把握① 歌唱演習以前に発音の概要を把握し理解する。

第3回　イタリア歌曲 ベルカント作品研究? ベルカント歌曲の様式、演奏上の注意点を理解し演習する。フランス歌曲 発音の概要を把握② 歌唱演習以前に発音の概要を把握し理解する。

第4回　スペイン歌曲 担当教員ガイダンス（担当教員 井ノ上）１年間の授業展開、演習上の注意点を理解する。スペイン歌曲 発音の概要を把握 歌唱演習以前に発音の概要を把握し理解する。

第5回　ドイツ歌曲 担当教員ガイダンス （担当教員 津山）１年間の授業展開、演習上の注意点を理解する。ドイツ歌曲 発音の概要を把握 歌唱演習以前に発音の概要し理解する。

第6回　ドイツ歌曲 モーツァルト作品研究① モーツァルト作品の様式、演習上の注意点を理解する。スペイン歌曲 ロルカ作品研究① ロルカ作品の様式、演習上の注意点を理解する。

第7回　日本歌曲 担当教員ガイダンス（担当教員 中村）１年間の授業展開、演習上の注意点を理解する。日本歌曲 日本歌曲の成り立ちと歴史 歌唱演習以前に成り立ち、歴史を理解する。

第8回　日本歌曲 山田耕筰作品研究① 山田耕筰作品の様式、演習上の注意点を理解する。日本歌曲 北原白秋作品研究① 北原白秋作品の様式、演習上の注意点を理解する。

第9回　イタリア歌曲 トスティ作品研究① トスティ作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。フランス歌曲 サティ作品研究①　サティ作品の様式。発音上、演習上の注意点を理解する。

第10回　イタリア歌曲 トスティ作品研究② トスティ作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。フランス歌曲 サティ作品研究②　サティ作品の様式、発音上の注意点、詩の解釈、演習場の注意点を理解する。

第11回　日本歌曲 山田耕筰・北原白秋② 山田耕筰・北原白秋作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。スペイン歌曲 ロルカ作品研究② ロルカ作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。

第12回　ドイツ歌曲　モーツアルト作品研究② モーツアルト作品の様式、発音上、演習上の注意点を理解する。スペイン歌曲 ロルカ作品研究③ ロルカ作品様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。

第13回　ドイツ歌曲 シューベルト作品研究① シューベルトの作品様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。前期成果発表準備① 前期学修した５言語の歌曲の成果発表に向けて担当教員別の指導により準備する。

第14回　前期成果発表合同準備② 前期学修した５言語の歌曲を成果発表に向けて準備し、より深く理解する。前期成果発表合同準備③ 前期学修した５言語の歌曲を成果発表に向けて準備し、より深く理解する。

第15回　前期成果発表会 成果発表においての個々のプログラミングを考え、 リハーサルにおいての演習上の注意点を深く理解し、演奏をする。

第16回　日本歌曲 信時潔作品研究① 信時潔作品の様式、演習上の注意点を理解する。イタリア歌曲 レスピーギ作品研究① レスピーギ作品の様式、演習上の注意点を理解する。

第17回　フランス歌曲 フォーレ作品研究② フォーレ作品の様式、発音上、演習上の注意点を理解する。フランス歌曲 フォーレ作品研究③ フォーレ作品の様式、発音上、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。

第18回　日本歌曲 信時潔作品研究② 信時潔作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。スペイン歌曲 ファリャ作品研究① ファリャ作品の様式、発音上、演習上の注意点を理解する。

第19回　ドイツ歌曲 シューベルト作品研究② シューベルト作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。イタリア歌曲 レスピーギ作品研究②　レスピーギ作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。

第20回 フランス歌曲 フォーレ作品研究④ フォーレ作品の様式、詩の解釈、発音、演習上の注意点を理解する。スペイン歌曲 ファリャ作品研究② ファリャ作品の様式、詩の解釈、発音、演習上の注意点を理解する。

第21回 ドイツ歌曲 シューマン作品研究① シューマン作品の様式、発音、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。イタリア歌曲 チマーラ作品研究① チマーラ作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。

第22回 日本歌曲 橋本國彦作品研究 橋本國彦作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。フランス歌曲 フォーレ作品研究⑤ フォーレ作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。

第23回 日本歌曲 平井康三郎の作品研究 平井康三郎作品の注意点様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。スペイン歌曲 ファリャ作品研究③ ファリャ作品の様式、詩の解釈、、演習上の注意点を理解する。

第24回 ドイツ歌曲 シューマン作品研究② シューマン作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。イタリア歌曲 ピッツェッティ作品研究① ピッツェッティ作品の様式、詩の解釈、、演習上の注意点を理解する。

第25回 ドイツ歌曲 シューマン作品研究③ シューマン作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。スペイン歌曲 ファリャ作品研究④ ファリャ作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。

第26回 日本歌曲 中田喜直作品研究 中田喜直作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。イタリア歌曲 チマーラ・ピッツェッティ作品研究② チマーラ・ピッツェッティ作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。

第27回 ドイツ歌曲 シューマン作品研究④ シューマン作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。フランス歌曲 ドビュッシー作品研究 ドビュッシー作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。

第28回 スペイン歌曲 ファリャ作品研究⑤ ファリャ作品の様式、詩の解釈、リズムのとり方、演習上の注意点を理解する。後期成果発表試演会合同準備① 1年間学修した5言語の歌曲の成果発表試演会に向けて担当教員合同で指導し演習する。

第29回 後期成果発表試演会合同準備② 1年間学修した5言語の歌曲の成果発表試演会の準備、より深く理解する。後期成果発表試演会合同準備③ 1年間学修した5言語の歌曲の成果発表試演会の準備、より深く理解する。

第30回 後期成果発表試演会　各自プログラミングの確認、リハーサルを通して1年間の最終的確認をする。試演会にいかに自分を表現するかを深く理解し学修成果の出る演奏を心掛け演奏する。

履修上の注意

各自、コンディションを整えて参加すること。
事前の学修、歌詞の朗読、譜読み、その他、十分な準備をして授業に臨むこと。
2022年度コロナ感染拡大防止のためオペラからの履修はしない。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

詩集、解説書、評伝など、様々な文献などにより、積極的に必要な知識身につけること。
予習・復習・研究を行うこと。（240分以上/週）
前期試演会および後期試験で講評によるフィードバックを行う。

教科書・参考書

教科書：イタリア近代歌曲集１，２，３（全音出版）：フォーレ歌曲集（全音出版）：ドビュッシー歌曲集（全音版）：シューベルト歌曲集（ペータース版）：シューマン歌曲集（ペータース版）：解説付き・日本歌曲選集１，２，３ 昭和音楽大学歌曲研究所・編著（全音出版）参考書：「日本名歌曲百撰氏の分析と解釈（音楽の友社出版）

科目名－クラス名

歌曲特別演習①

曜日時限

金 5時限

金 6時限

担当教員

中村　佳子

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	1～	通年	0

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	0	0	100	0	100

教育到達目標と概要

声楽家として詩と音楽双方からの研究を通して、歌曲（伊・仏・独・西・日）各言語の特性を知り、その国の文化、芸術を踏まえ歌唱法を研究していきます。１年次はよく演奏される作品を取り上げ各言語に対応できる演奏法を身につけ、作品研究を通してレベルの高い歌唱技能を修得する。

学修成果

各言語（伊・仏・独・西・日）詩の型を知り、深く味わうことができる。歌唱における各言語の明瞭な発音、発語を専門の各担当教員が指導し様々な作曲様式や民族性の魅力を指導し、レベルの高い歌唱が修得できる。

授業展開と内容

第1回　イタリア歌曲 担当教員ガイダンス(担当教員 鈴木）１年間の授業展開、演習上の注意点を理解する。フランス歌曲 担当教員ガイダンス(担当教員 大森）１年間の授業展開、演習上の注意点を理解する。

第2回　イタリア歌曲 発音の概要を把握 ベルカント作品研究① 発音の概要を把握し、ベルカント歌曲作品により演習上の注意点を理解する。フランス歌曲 発音の概要を把握① 歌唱演習以前に発音の概要を把握し理解する。

第3回　イタリア歌曲 ベルカント作品研究? ベルカント歌曲の様式、演奏上の注意点を理解し演習する。フランス歌曲 発音の概要を把握② 歌唱演習以前に発音の概要を把握し理解する。

第4回　スペイン歌曲 担当教員ガイダンス（担当教員 井ノ上）１年間の授業展開、演習上の注意点を理解する。スペイン歌曲 発音の概要を把握 歌唱演習以前に発音の概要を把握し理解する。

第5回　ドイツ歌曲 担当教員ガイダンス （担当教員 津山）１年間の授業展開、演習上の注意点を理解する。ドイツ歌曲 発音の概要を把握 歌唱演習以前に発音の概要し理解する。

第6回　ドイツ歌曲 モーツァルト作品研究① モーツァルト作品の様式、演習上の注意点を理解する。スペイン歌曲 ロルカ作品研究① ロルカ作品の様式、演習上の注意点を理解する。

第7回　日本歌曲 担当教員ガイダンス（担当教員 中村）１年間の授業展開、演習上の注意点を理解する。日本歌曲 日本歌曲の成り立ちと歴史 歌唱演習以前に成り立ち、歴史を理解する。

第8回　日本歌曲 山田耕筰作品研究① 山田耕筰作品の様式、演習上の注意点を理解する。日本歌曲 北原白秋作品研究① 北原白秋作品の様式、演習上の注意点を理解する。

第9回　イタリア歌曲 トスティ作品研究① トスティ作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。フランス歌曲 サティ作品研究①　サティ作品の様式。発音上、演習上の注意点を理解する。

第10回　イタリア歌曲 トスティ作品研究② トスティ作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。フランス歌曲 サティ作品研究②　サティ作品の様式、発音上の注意点、詩の解釈、演習場の注意点を理解する。

第11回　日本歌曲 山田耕筰・北原白秋② 山田耕筰・北原白秋作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。スペイン歌曲 ロルカ作品研究② ロルカ作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。

第12回　ドイツ歌曲　モーツアルト作品研究② モーツアルト作品の様式、発音上、演習上の注意点を理解する。スペイン歌曲 ロルカ作品研究③ ロルカ作品様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。

第13回　ドイツ歌曲 シューベルト作品研究① シューベルトの作品様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。前期成果発表準備① 前期学修した５言語の歌曲の成果発表に向けて担当教員別の指導により準備する。

第14回　前期成果発表合同準備② 前期学修した５言語の歌曲を成果発表に向けて準備し、より深く理解する。前期成果発表合同準備③ 前期学修した５言語の歌曲を成果発表に向けて準備し、より深く理解する。

第15回　前期成果発表会 成果発表においての個々のプログラミングを考え、 リハーサルにおいての演習上の注意点を深く理解し、演奏をする。

第16回　日本歌曲 信時潔作品研究① 信時潔作品の様式、演習上の注意点を理解する。イタリア歌曲 レスピーギ作品研究① レスピーギ作品の様式、演習上の注意点を理解する。

第17回　フランス歌曲 フォーレ作品研究② フォーレ作品の様式、発音上、演習上の注意点を理解する。フランス歌曲 フォーレ作品研究③ フォーレ作品の様式、発音上、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。

第18回　日本歌曲 信時潔作品研究② 信時潔作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。スペイン歌曲 ファリャ作品研究① ファリャ作品の様式、発音上、演習上の注意点を理解する。

第19回　ドイツ歌曲 シューベルト作品研究② シューベルト作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。イタリア歌曲 レスピーギ作品研究②　レスピーギ作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。

第20回 フランス歌曲 フォーレ作品研究④ フォーレ作品の様式、詩の解釈、発音、演習上の注意点を理解する。スペイン歌曲 ファリャ作品研究② ファリャ作品の様式、詩の解釈、発音、演習上の注意点を理解する。

第21回 ドイツ歌曲 シューマン作品研究① シューマン作品の様式、発音、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。イタリア歌曲 チマーラ作品研究① チマーラ作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。

第22回 日本歌曲 橋本國彦作品研究 橋本國彦作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。フランス歌曲 フォーレ作品研究⑤ フォーレ作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。

第23回 日本歌曲 平井康三郎の作品研究 平井康三郎作品の注意点様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。スペイン歌曲 ファリャ作品研究③ ファリャ作品の様式、詩の解釈、、演習上の注意点を理解する。

第24回 ドイツ歌曲 シューマン作品研究② シューマン作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。イタリア歌曲 ピッツェッティ作品研究① ピッツェッティ作品の様式、詩の解釈、、演習上の注意点を理解する。

第25回 ドイツ歌曲 シューマン作品研究③ シューマン作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。スペイン歌曲 ファリャ作品研究④ ファリャ作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。

第26回 日本歌曲 中田喜直作品研究 中田喜直作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。イタリア歌曲 チマーラ・ピッツェッティ作品研究② チマーラ・ピッツェッティ作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。

第27回 ドイツ歌曲 シューマン作品研究④ シューマン作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。フランス歌曲 ドビュッシー作品研究 ドビュッシー作品の様式、詩の解釈、演習上の注意点を理解する。

第28回 スペイン歌曲 ファリャ作品研究⑤ ファリャ作品の様式、詩の解釈、リズムのとり方、演習上の注意点を理解する。後期成果発表試演会合同準備① 1年間学修した5言語の歌曲の成果発表試演会に向けて担当教員合同で指導し演習する。

第29回 後期成果発表試演会合同準備② 1年間学修した5言語の歌曲の成果発表試演会の準備、より深く理解する。後期成果発表試演会合同準備③ 1年間学修した5言語の歌曲の成果発表試演会の準備、より深く理解する。

第30回 後期成果発表試演会　各自プログラミングの確認、リハーサルを通して1年間の最終的確認をする。試演会にいかに自分を表現するかを深く理解し学修成果の出る演奏を心掛け演奏する。

履修上の注意

各自、コンディションを整えて参加すること。
事前の学修、歌詞の朗読、譜読み、その他、十分な準備をして授業に臨むこと。
2022年度コロナ感染拡大防止のためオペラからの履修はしない。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

詩集、解説書、評伝など、様々な文献などにより、積極的に必要な知識身につけること。
予習・復習・研究を行うこと。（240分以上/週）
前期試演会および後期試験で講評によるフィードバックを行う。

教科書・参考書

教科書：イタリア近代歌曲集１，２，３（全音出版）：フォーレ歌曲集（全音出版）：ドビュッシー歌曲集（全音版）：シューベルト歌曲集（ペータース版）：シューマン歌曲集（ペータース版）：解説付き・日本歌曲選集１，２，３ 昭和音楽大学歌曲研究所・編著（全音出版）参考書：「日本名歌曲百撰氏の分析と解釈（音楽の友社出版）

科目名－クラス名

歌曲特別演習②

曜日時限

水 4時限

水 5時限

担当教員

中村　佳子

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	2～	通年	4

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	0	0	100	0	100

教育到達目標と概要

1年次に学んだ歌曲（日・伊・仏・独・西）各5言語の中から2言語を選択し、さらに文化・歴史を踏まえた各作曲者の作品の本質をとらえ専門的な知識と詩の内容を研究するとともに、その歌曲の世界観、芸術性を表現できる歌唱技術を修得する。

学修成果

2年次に選択した2言語を美しく明瞭に表現する歌唱法を身に着けることができる。さまざまな歌曲の世界を知り、リサイタルのレパートリーを作ることができる。選択した歌曲の詩を深く味わい、その国の風景、文化、心を表現する感性を高めることができるとともに指導者としての知識と歌唱法を習得できる。

授業展開と内容

第1回	日）黎明期の作品①/ 伊）パリゾッティの作品①/ 仏）ドビュッシーの作品①/ 独）モーツァルトの作品①/ 西）グラナドスの作品①
第2回	日）黎明期の作品②/ 伊）パリゾッティの作品②/ 仏）ドビュッシーの作品②/ 独)モーツァルトの作品②/ 西)グラナドスの作品②
第3回	日）山田耕作の作品①/ 伊）ベッリーニの作品/ 仏）サンサースンの作品①/ 独）モーツァルトの作品③/ 西）グラナドスの作品③
第4回	日）山田耕祚の作品②/伊）ドニゼッティの作品/仏）サンサーンスの作品②/独）シューベルトの作品①/西）グラナドスの作品④
第5回	日)信時潔の作品/ 伊)ロッシーニの作品/ 仏)グノー作品①/ 独)シューベルトの作品②/ 西)ロドリーゴの作品①
第6回	日)橋本國彦の作品/ 伊)メルカダンテの作品①/ 仏)グノーの作品②/ 独）シューベルトの作品③/ 西）ロドリーゴの作品②
第7回	日)平井康三郎の作品 ①/ 伊)メルカダンテの作品②/ 仏)グノーの作品③/ 独)シューベルトの作品④/ 西)ロドリーゴの作品③
第8回	日)平井康三郎の作品② / 伊)メルカダンテの作品③/ 仏)グノーの作品④/ 独)シューベルト⑤の作品②/ 西)ロドリーゴの作品④
第9回	日)別宮貞雄の作品①/ 伊)シベッラの作品①/ 仏)グノーの作品⑤/ 独)シューマンの作品①/ 西)オブラドルスの作品①
第10回	日)別宮貞雄の作品②/ 伊)シベッラの作品②/ 仏)ビゼーの作品品①/ 独)シューマンの作品②/ 西)オブラドルスの作品②
第11回	日)中田喜直の作品①/ 伊)トゥリンデッリの作品①/ 仏)ビゼーの作品②/ 独)シューマンの作品③/ 西)オブラドルスの作品③
第12回	日)中田喜直の作品②/ 伊)トゥリンデッリの作品②/ 仏)ビゼーの作品③/ 独)シューマンの作品④/ 西)オブラドルスの作品④
第13回	前期試演会プログラムの準備
第14回	前期試演会プログラムの完成
第15回	前期試演会
第16回	日)高田三郎の作品①/ 伊)ヴォルフ・フェラーリの作品①/ 仏)マスネの作品①/ 独)ブラームスの作品①/ 西)カタルーニャ語の作品
第17回	日)高田三郎の作品②/ 伊)ヴォルフ・フェラーリの作品②/ 仏マスネの作品②/ 独)ブラームスの作品②/ 西)モンポウの作品①
第18回	日)團伊玖磨の作品①/ 伊)レスピーギの作品①/ 仏)プーランクの作品①/ 独)ブラームスの作品③/西)モンポウの作品②
第19回	日）團伊玖磨の作品②/ 伊）レスピーギの作品②/ 仏）プーランクの作品②/ 独）ブラームスの作品④/ 西）モンポウの作品③
第20回	日)小林秀雄の作品①/伊)ピッツェッティの作品①/仏)デュパルクの作品①/独)R.シュトラウスの作品①/西)ガリシア語の作品
第21回	日)小林秀雄の作品②/伊)ピッツェッティの作品②/仏)デュパルクの作品②/独)R.シュトラウスの作品②/西)バスク語の作品
第22回	日)大中恩の作品①/伊)ザンドナイの作品①/仏)ショーソンの作品①/独)R.シュトラウスの作品③/西）トゥリーナの作品①
第23回	日)大中恩の作品②/伊)ザンドナイの作品②/仏)ショーソンの作品②/独)Rシュトラウスの作品④/西)トゥリーナの作品②
第24回	日)湯山昭・他の作品/伊)マルピエロの作品/仏)フランス曲まとめ/独)ヴォルフの作品①/西)トゥリーナの作品③
第25回	日)三善晃・他の作品/伊)カゼッラの作品①/仏)リサイタル曲目選択/独)ヴォルフの作品②/西)トゥリーナの作品④
第26回	日)武満徹・他の作品/伊)カゼッラの作品②/仏)リサイタル曲目選択/独)ヴォルフの作品③/西)スペイン歌曲まとめ
第27回	日)木下牧子・他の作品/伊)イタリア歌曲まとめ/仏)リサイタル曲目研究/独)ヴォルフの作品④/西)リサイタル曲目選択・研究
第28回	修了各歌曲リサイタルプログラムの準備
第29回	修了各歌曲リサイタルプログラムの準備（通し稽古）
第30回	修了リサイタルプログラムの完成

履修上の注意

コンディションを整え参加すること。事前の学習、朗読。譜読みの他、作品の研究を自主的に行ってのぞむこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

詩集、解説書、評伝など様々な文献を積極的に探し、広範な知識を拡げる努力をすること。
予習・復習・研究を行うこと。（240分以上/週）
前期試演会および修了リサイタルで講評によるフィードバックを行う。

教科書・参考書

教科書：「解説付・日本歌曲選集１， ２， ３ 昭和音楽大学歌曲研究所・編著(全音楽譜出版) ,30italian songs and arias (ペータース版)　Lirche del novecento italano(Ricordi版)他、フランス歌曲集１， ２， ３(全音出版),ブラームス歌曲集(ペータース版)、R.シュトラウス歌曲集(ベーレンライター版)他。

科目名－クラス名

歌曲特別演習②

曜日時限

水 4時限

水 5時限

担当教員

中村　佳子

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	2～	通年	0

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	0	0	100	0	100

教育到達目標と概要

1年次に学んだ歌曲（日・伊・仏・独・西）各5言語の中から2言語を選択し、さらに文化・歴史を踏まえた各作曲者の作品の本質をとらえ専門的な知識と詩の内容を研究するとともに、その歌曲の世界観、芸術性を表現できる歌唱技術を修得する。

学修成果

2年次に選択した2言語を美しく明瞭に表現する歌唱法を身に着けることができる。さまざまな歌曲の世界を知り、リサイタルのレパートリーを作ることができる。選択した歌曲の詩を深く味わい、その国の風景、文化、心を表現する感性を高めることができるとともに指導者としての知識と歌唱法を習得できる。

授業展開と内容

第1回	日）黎明期の作品①/ 伊）パリゾッティの作品①/ 仏）ドビュッシーの作品①/ 独）モーツァルトの作品①/ 西）グラナドスの作品①
第2回	日）黎明期の作品②/ 伊）パリゾッティの作品②/ 仏）ドビュッシーの作品②/ 独)モーツァルトの作品②/ 西)グラナドスの作品②
第3回	日）山田耕作の作品①/ 伊）ベッリーニの作品/ 仏）サンサースンの作品①/ 独）モーツァルトの作品③/ 西）グラナドスの作品③
第4回	日）山田耕祚の作品②/伊）ドニゼッティの作品/仏）サンサーンスの作品②/独）シューベルトの作品①/西）グラナドスの作品④
第5回	日)信時潔の作品/ 伊)ロッシーニの作品/ 仏)グノー作品①/ 独)シューベルトの作品②/ 西)ロドリーゴの作品①
第6回	日)橋本國彦の作品/ 伊)メルカダンテの作品①/ 仏)グノーの作品②/ 独）シューベルトの作品③/ 西）ロドリーゴの作品②
第7回	日)平井康三郎の作品 ①/ 伊)メルカダンテの作品②/ 仏)グノーの作品③/ 独)シューベルトの作品④/ 西)ロドリーゴの作品③
第8回	日)平井康三郎の作品② / 伊)メルカダンテの作品③/ 仏)グノーの作品④/ 独)シューベルト⑤の作品②/ 西)ロドリーゴの作品④
第9回	日)別宮貞雄の作品①/ 伊)シベッラの作品①/ 仏)グノーの作品⑤/ 独)シューマンの作品①/ 西)オブラドルスの作品①
第10回	日)別宮貞雄の作品②/ 伊)シベッラの作品②/ 仏)ビゼーの作品品①/ 独)シューマンの作品②/ 西)オブラドルスの作品②
第11回	日)中田喜直の作品①/ 伊)トゥリンデッリの作品①/ 仏)ビゼーの作品②/ 独)シューマンの作品③/ 西)オブラドルスの作品③
第12回	日)中田喜直の作品②/ 伊)トゥリンデッリの作品②/ 仏)ビゼーの作品③/ 独)シューマンの作品④/ 西)オブラドルスの作品④
第13回	前期試演会プログラムの準備
第14回	前期試演会プログラムの完成
第15回	前期試演会
第16回	日)高田三郎の作品①/ 伊)ヴォルフ・フェラーリの作品①/ 仏)マスネの作品①/ 独)ブラームスの作品①/ 西)カタルーニャ語の作品
第17回	日)高田三郎の作品②/ 伊)ヴォルフ・フェラーリの作品②/ 仏マスネの作品②/ 独)ブラームスの作品②/ 西)モンポウの作品①
第18回	日)團伊玖磨の作品①/ 伊)レスピーギの作品①/ 仏)プーランクの作品①/ 独)ブラームスの作品③/西)モンポウの作品②
第19回	日）團伊玖磨の作品②/ 伊）レスピーギの作品②/ 仏）プーランクの作品②/ 独）ブラームスの作品④/ 西）モンポウの作品③
第20回	日)小林秀雄の作品①/伊)ピッツェッティの作品①/仏)デュパルクの作品①/独)R.シュトラウスの作品①/西)ガリシア語の作品
第21回	日)小林秀雄の作品②/伊)ピッツェッティの作品②/仏)デュパルクの作品②/独)R.シュトラウスの作品②/西)バスク語の作品
第22回	日)大中恩の作品①/伊)ザンドナイの作品①/仏)ショーソンの作品①/独)R.シュトラウスの作品③/西）トゥリーナの作品①
第23回	日)大中恩の作品②/伊)ザンドナイの作品②/仏)ショーソンの作品②/独)Rシュトラウスの作品④/西)トゥリーナの作品②
第24回	日)湯山昭・他の作品/伊)マルピエロの作品/仏)フランス曲まとめ/独)ヴォルフの作品①/西)トゥリーナの作品③
第25回	日)三善晃・他の作品/伊)カゼッラの作品①/仏)リサイタル曲目選択/独)ヴォルフの作品②/西)トゥリーナの作品④
第26回	日)武満徹・他の作品/伊)カゼッラの作品②/仏)リサイタル曲目選択/独)ヴォルフの作品③/西)スペイン歌曲まとめ
第27回	日)木下牧子・他の作品/伊)イタリア歌曲まとめ/仏)リサイタル曲目研究/独)ヴォルフの作品④/西)リサイタル曲目選択・研究
第28回	修了各歌曲リサイタルプログラムの準備
第29回	修了各歌曲リサイタルプログラムの準備（通し稽古）
第30回	修了リサイタルプログラムの完成

履修上の注意

コンディションを整え参加すること。事前の学習、朗読。譜読みの他、作品の研究を自主的に行ってのぞむこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

詩集、解説書、評伝など様々な文献を積極的に探し、広範な知識を拡げる努力をすること。
予習・復習・研究を行うこと。（240分以上/週）
前期試演会および修了リサイタルで講評によるフィードバックを行う。

教科書・参考書

教科書：「解説付・日本歌曲選集１， ２， ３ 昭和音楽大学歌曲研究所・編著(全音楽譜出版) ,30italian songs and arias (ペータース版)　Lirche del novecento italano(Ricordi版)他、フランス歌曲集１， ２， ３(全音出版),ブラームス歌曲集(ペータース版)、R.シュトラウス歌曲集(ベーレンライター版)他。

科目名－クラス名

声楽①

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	1～	通年	4

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は、大学での学びの根幹となる主科実技の個人レッスン(週1回45分)である。ベルカント唱法に基いた呼吸～発声～共鳴に至るまでの歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。担当教員と曲目を選定し、イタリア語の正確な発音を学ぶとともに、発声の基本的な訓練を積み重ねながら少しずつ歌う身体を作っていく。
実技試験の課題曲は前期・後期とも「イタリア古典歌曲1曲(4分以内)」 実技試験の点数をもって評価とする。

学修成果

①歌唱の基本（発声、呼吸、支え等）を身につけ、ベルカント唱法の基礎力を高めることができる。
②イタリア語の正確な発音を覚えることができる。
③イタリア古典歌曲（1792年のRossini生誕以前の作曲者による作品）のレパートリーを作り、演奏法や様式感を理解することができる。

授業展開と内容

第1回 歌う姿勢
第2回 呼吸法
第3回 身体の使い方
第4回 発声練習（開口母音）
第5回 発声練習（閉口母音）
第6回 正確な音程
第7回 正確なリズム
第8回 イタリア語の正しい発音(母音)
第9回 イタリア語の正しい発音(子音)
第10回 歌詞の理解
第11回 歌詞の表現
第12回 フレーズと音楽づくり
第13回 前期試験曲の伴奏合わせ
第14回 前期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第15回 前期試験に向けての総合練習

第16回 歌う姿勢と重心
第17回 呼吸法とブレス
第18回 発声練習と身体の使い方 (開口母音)
第19回 発声練習と身体の使い方 （閉口母音）
第20回 正確な音程と歌い方
第21回 正確なリズムと歌い方
第22回 イタリア語の正しい発音とポジション（音読）
第23回 イタリア語の正しい発音とポジション(歌唱)
第24回 歌詞の理解力の向上
第25回 歌詞の表現力の向上
第26回 古典歌曲の様式感
第27回 古典歌曲の音楽表現
第28回 後期試験曲の伴奏合わせ
第29回 後期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第30回 後期試験に向けての総合練習

履修上の注意

実技レッスンであるため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。
体調管理を怠らないこと。レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。
歌詞の意味を調べ音読すること。
毎日の練習を積み上げる努力をすること。
一日１～２時間を目安に予習・復習を行うこと。

教科書・参考書

イタリア古典歌曲集　その他、担当教員から指示のあった任意の歌曲集、コンコーネなどの声楽教本

科目名－クラス名

声楽①

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	1～	通年	4

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は、短大での学びの根幹となる主科実技の個人レッスン(週1回45分)である。ベルカント唱法に基いた呼吸～発声～共鳴に至るまでの歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。担当教員と曲目を選定し、イタリア語の正確な発音を学ぶとともに、発声の基本的な訓練を積み重ねながら少しずつ歌う身体を作っていく。
実技試験の課題曲は前期・後期とも「イタリア古典歌曲1曲(4分以内)」 実技試験の点数をもって評価とする。

学修成果

①歌唱の基本（発声、呼吸、支え等）を身につけ、ベルカント唱法の基礎力を高めることができる。
②イタリア語の正確な発音を覚えることができる。
③イタリア古典歌曲（1792年のRossini生誕以前の作曲者による作品）のレパートリーを作り、演奏法や様式感を理解することができる。

授業展開と内容

第1回	歌う姿勢
第2回	呼吸法
第3回	身体の使い方
第4回	発声練習（開口母音）
第5回	発声練習（閉口母音）
第6回	正確な音程
第7回	正確なリズム
第8回	イタリア語の正しい発音(母音)
第9回	イタリア語の正しい発音(子音)
第10回	歌詞の理解
第11回	歌詞の表現
第12回	フレーズと音楽づくり
第13回	前期試験曲の伴奏合わせ
第14回	前期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第15回	前期試験に向けての総合練習
第16回	歌う姿勢と重心
第17回	呼吸法とブレス
第18回	発声練習と身体の使い方 (開口母音)
第19回	発声練習と身体の使い方 （閉口母音）
第20回	正確な音程と歌い方
第21回	正確なリズムと歌い方
第22回	イタリア語の正しい発音とポジション（音読）
第23回	イタリア語の正しい発音とポジション(歌唱)
第24回	歌詞の理解力の向上
第25回	歌詞の表現力の向上
第26回	古典歌曲の様式感
第27回	古典歌曲の音楽表現
第28回	後期試験曲の伴奏合わせ
第29回	後期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第30回	後期試験に向けての総合練習

履修上の注意

実技レッスンであるため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。
体調管理を怠らないこと。レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。
歌詞の意味を調べ音読すること。
毎日の練習を積み上げる努力をすること。
一日１～２時間を目安に予習・復習を行うこと。

教科書・参考書

イタリア古典歌曲集　その他、担当教員から指示のあった任意の歌曲集、コンコーネなどの声楽教本

科目名－クラス名

声楽①

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	1～	通年	4

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は、大学での学びの根幹となる主科実技の個人レッスン(週1回45分)である。ベルカント唱法に基いた呼吸～発声～共鳴に至るまでの歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。担当教員と曲目を選定し、イタリア語の正確な発音を学ぶとともに、発声の基本的な訓練を積み重ねながら少しずつ歌う身体を作っていく。
実技試験の課題曲は前期・後期とも「イタリア古典歌曲1曲(4分以内)」 実技試験の点数をもって評価とする。

学修成果

①歌唱の基本（発声、呼吸、支え等）を身につけ、ベルカント唱法の基礎力を高めることができる。
②イタリア語の正確な発音を覚えることができる。
③イタリア古典歌曲（1792年のRossini生誕以前の作曲者による作品）のレパートリーを作り、演奏法や様式感を理解することができる。

授業展開と内容

第1回	歌う姿勢
第2回	呼吸法
第3回	身体の使い方
第4回	発声練習（開口母音）
第5回	発声練習（閉口母音）
第6回	正確な音程
第7回	正確なリズム
第8回	イタリア語の正しい発音(母音)
第9回	イタリア語の正しい発音(子音)
第10回	歌詞の理解
第11回	歌詞の表現
第12回	フレーズと音楽づくり
第13回	前期試験曲の伴奏合わせ
第14回	前期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第15回	前期試験に向けての総合練習
第16回	歌う姿勢と重心
第17回	呼吸法とブレス
第18回	発声練習と身体の使い方 (開口母音)
第19回	発声練習と身体の使い方 （閉口母音）
第20回	正確な音程と歌い方
第21回	正確なリズムと歌い方
第22回	イタリア語の正しい発音とポジション（音読）
第23回	イタリア語の正しい発音とポジション(歌唱)
第24回	歌詞の理解力の向上
第25回	歌詞の表現力の向上
第26回	古典歌曲の様式感
第27回	古典歌曲の音楽表現
第28回	後期試験曲の伴奏合わせ
第29回	後期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第30回	後期試験に向けての総合練習

履修上の注意

実技レッスンであるため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。
体調管理を怠らないこと。レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。
歌詞の意味を調べ音読すること。
毎日の練習を積み上げる努力をすること。
一日１～２時間を目安に予習・復習を行うこと。

教科書・参考書

イタリア古典歌曲集　その他、担当教員から指示のあった任意の歌曲集、コンコーネなどの声楽教本

科目名－クラス名

声楽①

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	1～	通年	4

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は、短大での学びの根幹となる主科実技の個人レッスン(週1回45分)である。ベルカント唱法に基いた呼吸～発声～共鳴に至るまでの歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。担当教員と曲目を選定し、イタリア語の正確な発音を学ぶとともに、発声の基本的な訓練を積み重ねながら少しずつ歌う身体を作っていく。
実技試験の課題曲は前期・後期とも「イタリア古典歌曲1曲(4分以内)」 実技試験の点数をもって評価とする。

学修成果

①歌唱の基本（発声、呼吸、支え等）を身につけ、ベルカント唱法の基礎力を高めることができる。
②イタリア語の正確な発音を覚えることができる。
③イタリア古典歌曲（1792年のRossini生誕以前の作曲者による作品）のレパートリーを作り、演奏法や様式感を理解することができる。

授業展開と内容

第1回	歌う姿勢
第2回	呼吸法
第3回	身体の使い方
第4回	発声練習（開口母音）
第5回	発声練習（閉口母音）
第6回	正確な音程
第7回	正確なリズム
第8回	イタリア語の正しい発音(母音)
第9回	イタリア語の正しい発音(子音)
第10回	歌詞の理解
第11回	歌詞の表現
第12回	フレーズと音楽づくり
第13回	前期試験曲の伴奏合わせ
第14回	前期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第15回	前期試験に向けての総合練習
第16回	歌う姿勢と重心
第17回	呼吸法とブレス
第18回	発声練習と身体の使い方 (開口母音)
第19回	発声練習と身体の使い方 （閉口母音）
第20回	正確な音程と歌い方
第21回	正確なリズムと歌い方
第22回	イタリア語の正しい発音とポジション（音読）
第23回	イタリア語の正しい発音とポジション(歌唱)
第24回	歌詞の理解力の向上
第25回	歌詞の表現力の向上
第26回	古典歌曲の様式感
第27回	古典歌曲の音楽表現
第28回	後期試験曲の伴奏合わせ
第29回	後期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第30回	後期試験に向けての総合練習

履修上の注意

実技レッスンであるため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。
体調管理を怠らないこと。レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。
歌詞の意味を調べ音読すること。
毎日の練習を積み上げる努力をすること。
一日１～２時間を目安に予習・復習を行うこと。

教科書・参考書

イタリア古典歌曲集　その他、担当教員から指示のあった任意の歌曲集、コンコーネなどの声楽教本

科目名－クラス名

声楽①

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	1～	通年	4

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は、短大での学びの根幹となる主科実技の個人レッスン(週1回45分)である。ベルカント唱法に基いた呼吸～発声～共鳴に至るまでの歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。担当教員と曲目を選定し、イタリア語の正確な発音を学ぶとともに、発声の基本的な訓練を積み重ねながら少しずつ歌う身体を作っていく。
実技試験の課題曲は前期・後期とも「イタリア古典歌曲1曲(4分以内)」 実技試験の点数をもって評価とする。

学修成果

①歌唱の基本（発声、呼吸、支え等）を身につけ、ベルカント唱法の基礎力を高めることができる。
②イタリア語の正確な発音を覚えることができる。
③イタリア古典歌曲（1792年のRossini生誕以前の作曲者による作品）のレパートリーを作り、演奏法や様式感を理解することができる。

授業展開と内容

第1回	歌う姿勢
第2回	呼吸法
第3回	身体の使い方
第4回	発声練習（開口母音）
第5回	発声練習（閉口母音）
第6回	正確な音程
第7回	正確なリズム
第8回	イタリア語の正しい発音(母音)
第9回	イタリア語の正しい発音(子音)
第10回	歌詞の理解
第11回	歌詞の表現
第12回	フレーズと音楽づくり
第13回	前期試験曲の伴奏合わせ
第14回	前期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第15回	前期試験に向けての総合練習
第16回	歌う姿勢と重心
第17回	呼吸法とブレス
第18回	発声練習と身体の使い方 (開口母音)
第19回	発声練習と身体の使い方 （閉口母音）
第20回	正確な音程と歌い方
第21回	正確なリズムと歌い方
第22回	イタリア語の正しい発音とポジション（音読）
第23回	イタリア語の正しい発音とポジション(歌唱)
第24回	歌詞の理解力の向上
第25回	歌詞の表現力の向上
第26回	古典歌曲の様式感
第27回	古典歌曲の音楽表現
第28回	後期試験曲の伴奏合わせ
第29回	後期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第30回	後期試験に向けての総合練習

履修上の注意

実技レッスンであるため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。
体調管理を怠らないこと。レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。
歌詞の意味を調べ音読すること。
毎日の練習を積み上げる努力をすること。
一日１～２時間を目安に予習・復習を行うこと。

教科書・参考書

イタリア古典歌曲集　その他、担当教員から指示のあった任意の歌曲集、コンコーネなどの声楽教本

科目名－クラス名

声楽③

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	3～	通年	4

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は大学での学びの根幹となる主科実技の個人レッスン(週1回45分)である。ベルカント唱法に基いた歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。2年次までの歌曲に加え、学生個々の能力・進度に合わせてオペラアリア、近代歌曲など範囲を広げて学んでいく。実技試験課題は、前期・後期とも「自由曲1曲(イタリア語のもの)(5分以内）※オペラアリアの場合、Verdi以降の作品は除く」
試験の点数をもって評価とする。

学修成果

①歌唱の技術を理解し、ベルカントに基いた歌唱力を向上させることができる。
②各々の楽器(声)に合った歌曲やオペラアリアのレパートリーを作り、その演奏法と様式感を身につけることができる。
③レチタティーヴォの歌い方を覚え、身につけることができる。

授業展開と内容

第1回　呼吸、発声練習
第2回　共鳴、身体の使い方の練習
第3回　イタリア語ディクション（音読）
第4回　イタリア語ディクション（歌唱）
第5回　レチタティーヴォの歌い方（レチタティーヴォ・セッコ）
第6回　レチタティーヴォの歌い方（レチタティーヴォ・アッコンパニャート）
第7回　カデンツァ・修飾音などの歌い方
第8回　アジリタ・ポルタメントなどの歌い方
第9回　歌詞・作品の理解
第10回　歌詞・作品の理解と表現
第11回　時代・様式にあった音楽づくり
第12回　時代・様式にあった表現方法
第13回　前期試験曲の伴奏合わせ
第14回　前期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第15回　前期試験に向けての総合練習

第16回　呼吸、発声技術の向上
第17回　共鳴、身体の使い方の向上
第18回　イタリア語ディクションの向上（音読）
第19回　イタリア語ディクションの向上（歌唱）
第20回　レチタティーヴォの歌い方の向上（レチタティーヴォ・セッコ
第21回　レチタティーヴォの歌い方の向上（レチタティーヴォ・アッコンパニャート）
第22回　カデンツァ・修飾音などの歌い方（ロマン派の楽曲に多用される様々な形）
第23回　アジリタ・ポルタメントなどの歌い方（ロマン派の楽曲に多用される様々な形）
第24回　歌詞・作品の理解力の向上
第25回　歌詞・作品の理解と表現力の向上
第26回　時代・様式にあった音楽づくりの向上
第27回　時代・様式にあった表現方法の向上
第28回　後期試験曲の伴奏合わせ
第29回　後期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第30回　後期試験に向けての総合練習

履修上の注意

実技レッスンのため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。
体調管理を怠らないこと。実技試験でオペラアリアを歌う場合Verdi以降の作品は除くこと。
レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。
オペラアリアを学ぶ場合は作品全体をよく研究すること。
毎日の練習を積み上げる努力をすること。
一日１～２時間を目安に予習・復習を行うこと。

教科書・参考書

担当教員から指示のあった任意の歌曲集、アリア集など

科目名－クラス名

声楽③

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	3～	通年	4

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は大学での学びの根幹となる主科実技の個人レッスン(週1回45分)である。ベルカント唱法に基いた歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。2年次までの歌曲に加え、学生個々の能力・進度に合わせてオペラアリア、近代歌曲など範囲を広げて学んでいく。実技試験課題は、前期・後期とも「自由曲1曲(イタリア語のもの)(5分以内）※オペラアリアの場合、Verdi以降の作品は除く」
試験の点数をもって評価とする。

学修成果

①歌唱の技術を理解し、ベルカントに基いた歌唱力を向上させることができる。
②各々の楽器(声)に合った歌曲やオペラアリアのレパートリーを作り、その演奏法と様式感を身につけることができる。
③レチタティーヴォの歌い方を覚え、身につけることができる。

授業展開と内容

第1回　呼吸、発声練習
第2回　共鳴、身体の使い方の練習
第3回　イタリア語ディクション（音読）
第4回　イタリア語ディクション（歌唱）
第5回　レチタティーヴォの歌い方（レチタティーヴォ・セッコ）
第6回　レチタティーヴォの歌い方（レチタティーヴォ・アッコンパニャート）
第7回　カデンツァ・修飾音などの歌い方
第8回　アジリタ・ポルタメントなどの歌い方
第9回　歌詞・作品の理解
第10回　歌詞・作品の理解と表現
第11回　時代・様式にあった音楽づくり
第12回　時代・様式にあった表現方法
第13回　前期試験曲の伴奏合わせ
第14回　前期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第15回　前期試験に向けての総合練習

第16回　呼吸、発声技術の向上
第17回　共鳴、身体の使い方の向上
第18回　イタリア語ディクションの向上（音読）
第19回　イタリア語ディクションの向上（歌唱）
第20回　レチタティーヴォの歌い方の向上（レチタティーヴォ・セッコ
第21回　レチタティーヴォの歌い方の向上（レチタティーヴォ・アッコンパニャート）
第22回　カデンツァ・修飾音などの歌い方（ロマン派の楽曲に多用される様々な形）
第23回　アジリタ・ポルタメントなどの歌い方（ロマン派の楽曲に多用される様々な形）
第24回　歌詞・作品の理解力の向上
第25回　歌詞・作品の理解と表現力の向上
第26回　時代・様式にあった音楽づくりの向上
第27回　時代・様式にあった表現方法の向上
第28回　後期試験曲の伴奏合わせ
第29回　後期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第30回　後期試験に向けての総合練習

履修上の注意

実技レッスンのため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。
体調管理を怠らないこと。実技試験でオペラアリアを歌う場合Verdi以降の作品は除くこと。
レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。
オペラアリアを学ぶ場合は作品全体をよく研究すること。
毎日の練習を積み上げる努力をすること。
一日１～２時間を目安に予習・復習を行うこと。

教科書・参考書

担当教員から指示のあった任意の歌曲集、アリア集など

科目名－クラス名

声楽Ⅰ①

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	1～	通年	6

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は、大学での学びの根幹となる主科実技の個人レッスンである。ベルカント唱法に基いた呼吸～発声～共鳴に至るまでの歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。1年次は30分の個人レッスンを週2回（計60分）行う。担当教員と曲目を選定し、イタリア語の正確な発音を学ぶとともに、発声の基本的な訓練を積み重ねながら少しずつ歌う身体を作っていく。実技試験の課題曲は前期・後期とも「イタリア古典歌曲1曲(4分以内)」 実技試験の点数をもって評価とする。

学修成果

①歌唱の基本（発声、呼吸、支え等）を身につけ、ベルカント唱法の基礎力を高めることができる。
②イタリア語の正確な発音を覚えることができる。
③イタリア古典歌曲（1792年のRossini生誕以前の作曲者による作品）のレパートリーを作り、演奏法や様式感を理解することができる。

授業展開と内容

第1回	歌う姿勢
第2回	呼吸法
第3回	身体の使い方
第4回	発声練習（開口母音）
第5回	発声練習（閉口母音）
第6回	正確な音程
第7回	正確なリズム
第8回	イタリア語の正しい発音(母音)
第9回	イタリア語の正しい発音(子音)
第10回	歌詞の理解
第11回	歌詞の表現
第12回	フレーズと音楽づくり
第13回	前期試験曲の伴奏合わせ
第14回	前期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第15回	前期試験に向けての総合練習
第16回	歌う姿勢と重心
第17回	呼吸法とブレス
第18回	発声練習と身体の使い方 (開口母音)
第19回	発声練習と身体の使い方 （閉口母音）
第20回	正確な音程と歌い方
第21回	正確なリズムと歌い方
第22回	イタリア語の正しい発音とポジション（音読）
第23回	イタリア語の正しい発音とポジション(歌唱)
第24回	歌詞の理解力の向上
第25回	歌詞の表現力の向上
第26回	古典歌曲の様式感
第27回	古典歌曲の音楽表現
第28回	後期試験曲の伴奏合わせ
第29回	後期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第30回	後期試験に向けての総合練習

履修上の注意

実技レッスンであるため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。
体調管理を怠らないこと。レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読だけではなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。
歌詞の意味を調べ音読すること。毎日の練習を積み上げる努力をすること。
一日１～２時間を目安に予習・復習を行うこと。

教科書・参考書

イタリア古典歌曲集　その他、担当教員から指示のあった任意の歌曲集、コンコーネなどの声楽教本

科目名－クラス名

声楽Ⅰ①

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	1～	通年	6

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は、短大での学びの根幹となる主科実技の個人レッスンである。ベルカント唱法に基いた呼吸～発声～共鳴に至るまでの歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。1年次は30分の個人レッスンを週2回（計60分）行う。担当教員と曲目を選定し、イタリア語の正確な発音を学ぶとともに、発声の基本的な訓練を積み重ねながら少しずつ歌う身体を作っていく。実技試験の課題曲は前期・後期とも「イタリア古典歌曲1曲(4分以内)」 実技試験の点数をもって評価とする。

学修成果

①歌唱の基本（発声、呼吸、支え等）を身につけ、ベルカント唱法の基礎力を高めることができる。
②イタリア語の正確な発音を覚えることができる。
③イタリア古典歌曲（1792年のRossini生誕以前の作曲者による作品）のレパートリーを作り、演奏法や様式感を理解することができる。

授業展開と内容

第1回	歌う姿勢
第2回	呼吸法
第3回	身体の使い方
第4回	発声練習（開口母音）
第5回	発声練習（閉口母音）
第6回	正確な音程
第7回	正確なリズム
第8回	イタリア語の正しい発音(母音)
第9回	イタリア語の正しい発音(子音)
第10回	歌詞の理解
第11回	歌詞の表現
第12回	フレーズと音楽づくり
第13回	前期試験曲の伴奏合わせ
第14回	前期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第15回	前期試験に向けての総合練習
第16回	歌う姿勢と重心
第17回	呼吸法とブレス
第18回	発声練習と身体の使い方 (開口母音)
第19回	発声練習と身体の使い方 （閉口母音）
第20回	正確な音程と歌い方
第21回	正確なリズムと歌い方
第22回	イタリア語の正しい発音とポジション（音読）
第23回	イタリア語の正しい発音とポジション(歌唱)
第24回	歌詞の理解力の向上
第25回	歌詞の表現力の向上
第26回	古典歌曲の様式感
第27回	古典歌曲の音楽表現
第28回	後期試験曲の伴奏合わせ
第29回	後期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第30回	後期試験に向けての総合練習

履修上の注意

実技レッスンであるため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。
体調管理を怠らないこと。
レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。
歌詞の意味を調べ音読すること。
毎日の練習を積み上げる努力をすること。
一日１～２時間を目安に予習・復習を行うこと。

教科書・参考書

イタリア古典歌曲集　その他、担当教員から指示のあった任意の歌曲集、コンコーネなどの声楽教本

科目名－クラス名

声楽Ⅰ①

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	1～	通年	6

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は、大学での学びの根幹となる主科実技の個人レッスンである。ベルカント唱法に基いた呼吸～発声～共鳴に至るまでの歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。1年次は30分の個人レッスンを週2回（計60分）行う。担当教員と曲目を選定し、イタリア語の正確な発音を学ぶとともに、発声の基本的な訓練を積み重ねながら少しずつ歌う身体を作っていく。実技試験の課題曲は前期・後期とも「イタリア古典歌曲1曲(4分以内)」 実技試験の点数をもって評価とする。

学修成果

①歌唱の基本（発声、呼吸、支え等）を身につけ、ベルカント唱法の基礎力を高めることができる。
②イタリア語の正確な発音を覚えることができる。
③イタリア古典歌曲（1792年のRossini生誕以前の作曲者による作品）のレパートリーを作り、演奏法や様式感を理解することができる。

授業展開と内容

第1回	歌う姿勢
第2回	呼吸法
第3回	身体の使い方
第4回	発声練習（開口母音）
第5回	発声練習（閉口母音）
第6回	正確な音程
第7回	正確なリズム
第8回	イタリア語の正しい発音(母音)
第9回	イタリア語の正しい発音(子音)
第10回	歌詞の理解
第11回	歌詞の表現
第12回	フレーズと音楽づくり
第13回	前期試験曲の伴奏合わせ
第14回	前期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第15回	前期試験に向けての総合練習
第16回	歌う姿勢と重心
第17回	呼吸法とブレス
第18回	発声練習と身体の使い方 (開口母音)
第19回	発声練習と身体の使い方 （閉口母音）
第20回	正確な音程と歌い方
第21回	正確なリズムと歌い方
第22回	イタリア語の正しい発音とポジション（音読）
第23回	イタリア語の正しい発音とポジション(歌唱)
第24回	歌詞の理解力の向上
第25回	歌詞の表現力の向上
第26回	古典歌曲の様式感
第27回	古典歌曲の音楽表現
第28回	後期試験曲の伴奏合わせ
第29回	後期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第30回	後期試験に向けての総合練習

履修上の注意

実技レッスンであるため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。
体調管理を怠らないこと。レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読だけではなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。
歌詞の意味を調べ音読すること。毎日の練習を積み上げる努力をすること。
一日１～２時間を目安に予習・復習を行うこと。

教科書・参考書

イタリア古典歌曲集　その他、担当教員から指示のあった任意の歌曲集、コンコーネなどの声楽教本

科目名－クラス名

声楽Ⅰ①

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	1～	通年	6

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は、短大での学びの根幹となる主科実技の個人レッスンである。ベルカント唱法に基いた呼吸～発声～共鳴に至るまでの歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。1年次は30分の個人レッスンを週2回（計60分）行う。担当教員と曲目を選定し、イタリア語の正確な発音を学ぶとともに、発声の基本的な訓練を積み重ねながら少しずつ歌う身体を作っていく。実技試験の課題曲は前期・後期とも「イタリア古典歌曲1曲(4分以内)」 実技試験の点数をもって評価とする。

学修成果

①歌唱の基本（発声、呼吸、支え等）を身につけ、ベルカント唱法の基礎力を高めることができる。
②イタリア語の正確な発音を覚えることができる。
③イタリア古典歌曲（1792年のRossini生誕以前の作曲者による作品）のレパートリーを作り、演奏法や様式感を理解することができる。

授業展開と内容

第1回	歌う姿勢
第2回	呼吸法
第3回	身体の使い方
第4回	発声練習（開口母音）
第5回	発声練習（閉口母音）
第6回	正確な音程
第7回	正確なリズム
第8回	イタリア語の正しい発音(母音)
第9回	イタリア語の正しい発音(子音)
第10回	歌詞の理解
第11回	歌詞の表現
第12回	フレーズと音楽づくり
第13回	前期試験曲の伴奏合わせ
第14回	前期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第15回	前期試験に向けての総合練習
第16回	歌う姿勢と重心
第17回	呼吸法とブレス
第18回	発声練習と身体の使い方 (開口母音)
第19回	発声練習と身体の使い方 （閉口母音）
第20回	正確な音程と歌い方
第21回	正確なリズムと歌い方
第22回	イタリア語の正しい発音とポジション（音読）
第23回	イタリア語の正しい発音とポジション(歌唱)
第24回	歌詞の理解力の向上
第25回	歌詞の表現力の向上
第26回	古典歌曲の様式感
第27回	古典歌曲の音楽表現
第28回	後期試験曲の伴奏合わせ
第29回	後期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第30回	後期試験に向けての総合練習

履修上の注意

実技レッスンであるため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。
体調管理を怠らないこと。
レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。
歌詞の意味を調べ音読すること。
毎日の練習を積み上げる努力をすること。
一日１～２時間を目安に予習・復習を行うこと。

教科書・参考書

イタリア古典歌曲集　その他、担当教員から指示のあった任意の歌曲集、コンコーネなどの声楽教本

科目名－クラス名

声楽Ⅰ①

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	1～	通年	6

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は、短大での学びの根幹となる主科実技の個人レッスンである。ベルカント唱法に基いた呼吸～発声～共鳴に至るまでの歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。1年次は30分の個人レッスンを週2回（計60分）行う。担当教員と曲目を選定し、イタリア語の正確な発音を学ぶとともに、発声の基本的な訓練を積み重ねながら少しずつ歌う身体を作っていく。実技試験の課題曲は前期・後期とも「イタリア古典歌曲1曲(4分以内)」 実技試験の点数をもって評価とする。

学修成果

①歌唱の基本（発声、呼吸、支え等）を身につけ、ベルカント唱法の基礎力を高めることができる。
②イタリア語の正確な発音を覚えることができる。
③イタリア古典歌曲（1792年のRossini生誕以前の作曲者による作品）のレパートリーを作り、演奏法や様式感を理解することができる。

授業展開と内容

第1回	歌う姿勢
第2回	呼吸法
第3回	身体の使い方
第4回	発声練習（開口母音）
第5回	発声練習（閉口母音）
第6回	正確な音程
第7回	正確なリズム
第8回	イタリア語の正しい発音(母音)
第9回	イタリア語の正しい発音(子音)
第10回	歌詞の理解
第11回	歌詞の表現
第12回	フレーズと音楽づくり
第13回	前期試験曲の伴奏合わせ
第14回	前期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第15回	前期試験に向けての総合練習
第16回	歌う姿勢と重心
第17回	呼吸法とブレス
第18回	発声練習と身体の使い方 (開口母音)
第19回	発声練習と身体の使い方 （閉口母音）
第20回	正確な音程と歌い方
第21回	正確なリズムと歌い方
第22回	イタリア語の正しい発音とポジション（音読）
第23回	イタリア語の正しい発音とポジション(歌唱)
第24回	歌詞の理解力の向上
第25回	歌詞の表現力の向上
第26回	古典歌曲の様式感
第27回	古典歌曲の音楽表現
第28回	後期試験曲の伴奏合わせ
第29回	後期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第30回	後期試験に向けての総合練習

履修上の注意

実技レッスンであるため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。
体調管理を怠らないこと。
レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。
歌詞の意味を調べ音読すること。
毎日の練習を積み上げる努力をすること。
一日１～２時間を目安に予習・復習を行うこと。

教科書・参考書

イタリア古典歌曲集　その他、担当教員から指示のあった任意の歌曲集、コンコーネなどの声楽教本

科目名－クラス名

声楽Ⅰ②

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	2～	通年	6

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は大学での学びの根幹となる主科実技の個人レッスン(週1回60分)である。ベルカント唱法に基いた歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。イタリア古典歌曲に加え、イタリアベルカントの代表的作曲家及びVerdiの歌曲まで時代を広げて勉強する。実技試験課題は、前期「イタリア古典歌曲又はRossini,Donizetti,Bellini,Verdiの歌曲1曲(4分以内)」後期「Rossini,Donizetti,Bellini,Verdiの歌曲1曲（4分以内）」　実技試験の点数をもって評価とする。

学修成果

① 歌唱の技術を理解し、ベルカント唱法の基礎力を向上させることができる。
②イタリア古典歌曲（1792年のRossini生誕以前の作曲者による作品）のレパートリーを作り、演奏法と様式感を理解することができる。
③イタリアベルカントの代表的な作曲家（Rossini,Donizetti,Bellini）及びVerdiの室内歌曲のレパートリーを作り、その演奏法と様式感を理解することができる。

授業展開と内容

第1回　呼吸、発声練習
第2回　共鳴、身体の使い方の練習
第3回　イタリア語ディクション（音読）
第4回　イタリア語ディクション（歌唱）
第5回　正確な音程とリズム
第6回　イタリア古典歌曲及びRossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲の様式感
第7回　イタリア古典歌曲及びRossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲の演奏法
第8回　イタリア語（レチタティーヴォを含む）の正しい発音と歌い方
第9回　歌詞の理解
第10回　歌詞の表現
第11回　時代・様式にあった音楽づくり
第12回　時代・様式にあった表現方法
第13回　前期試験曲の伴奏合わせ
第14回　前期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第15回　前期試験に向けての総合練習

第16回　呼吸、発声技術の向上
第17回　共鳴、身体の使い方の理解と向上
第18回　イタリア語ディクションとポジション（音読）
第19回　イタリア語ディクションとポジション（歌唱）
第20回　正確な音程とリズムを作る能力の向上
第21回　Rossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲の様式感
第22回　Rossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲の演奏法
第23回　イタリア語（レチタティーヴォを含む）の正しい発音と歌い方の向上
第24回　歌詞の理解力の向上と表現
第25回　歌詞の表現力の向上と歌唱
第26回　時代・様式にあった音楽づくりと表現
第27回　時代・様式にあった表現方法と歌唱
第28回　後期試験曲の伴奏合わせ
第29回　後期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第30回　後期試験に向けての総合練習

履修上の注意

実技レッスンであるため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。体調管理を怠らないこと。レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。
オペラアリアを学ぶ場合は作品全体をよく研究すること。毎日の練習を積み上げる努力をすること。
一日１～２時間を目安に予習・復習を行うこと。

教科書・参考書

イタリア古典歌曲集、 Rossini,Donizetti,Bellini,Verdiの歌曲集 その他、担当教員から指示のあった任意の曲集、コンコーネなどの声楽教本など

科目名－クラス名

声楽Ⅰ②

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	2～	通年	6

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は短大での学びの根幹となる主科実技の個人レッスン(週1回60分)である。ベルカント唱法に基いた歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。イタリアベルカントの代表的作曲家及びVerdiまでの室内歌曲の他、日本歌曲、オペラアリアまでを学生の進度、能力に合わせて学んでいく。
実技試験は前期「Rossini,Donizetti,Bellini,Verdiの歌曲1曲(4分以内)」　後期「日本歌曲と自由曲(イタリア語のもの)各1曲(7分以内)」　実技試験の点数をもって評価とする。

学修成果

① 歌唱の技術を理解し、ベルカント唱法の基礎力を向上させることができる。
②イタリアベルカントの代表的な作曲家（Rossini,Donizetti,Bellini）及びVerdiの室内歌曲やオペラアリアのレパートリーを作り、その演奏法と様式感を理解することができる。
③日本歌曲のレパートリーを作ると同時に、詩や曲を通じて日本人の心を深く味わい、それを表現することができる。

授業展開と内容

第1回　呼吸、発声練習
第2回　共鳴、身体の使い方の練習
第3回　イタリア語ディクション（音読）
第4回　イタリア語（歌唱）
第5回　正確な音程とリズム
第6回　イタリア古典歌曲及びRossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲の様式感
第7回　イタリア古典歌曲及びRossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲の演奏法
第8回　イタリア語（レチタティーヴォを含む）の正しい発音と歌い方
第9回　歌詞の理解
第10回　歌詞の表現
第11回　時代・様式にあった音楽づくり
第12回　時代・様式にあった表現方法
第13回　前期試験曲の伴奏合わせ
第14回　前期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第15回　前期試験に向けての総合練習

第16回　呼吸、発声技術の向上
第17回　共鳴、身体の使い方の理解と向上
第18回　イタリア語・日本語 ディクションとポジション（音読）
第19回　イタリア語・日本語 ディクションとポジション（歌唱）
第20回　正確な音程とリズムを作る能力の向上
第21回　Rossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲、オペラアリア及び日本歌曲の様式感
第22回　Rossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲、オペラアリア及び日本歌曲の演奏法
第23回　イタリア語（レチタティーヴォを含む）・日本語の正しい発音と歌い方の向上
第24回　歌詞の理解力の向上と表現
第25回　歌詞の表現力の向上と歌唱
第26回　時代・様式にあった音楽づくりと表現
第27回　時代・様式にあった表現方法と歌唱
第28回　後期試験曲の伴奏合わせ
第29回　後期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）

第30回　後期試験に向けての総合練習

履修上の注意

実技レッスンであるため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。
体調管理を怠らないこと。
レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。
オペラアリアを学ぶ場合は作品全体をよく研究すること。
毎日の練習を積み上げる努力をすること。
一日１～２時間を目安に予習・復習を行うこと。

教科書・参考書

イタリア古典歌曲集、 Rossini,Donizetti,Bellini,Verdiの歌曲集、日本歌曲集 その他、担当教員から指示のあった任意の曲集、コンコーネなどの声楽教本など

科目名－クラス名

声楽Ⅰ②

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	2～	通年	6

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は大学での学びの根幹となる主科実技の個人レッスン(週1回60分)である。ベルカント唱法に基いた歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。イタリア古典歌曲に加え、イタリアベルカントの代表的作曲家及びVerdiの歌曲まで時代を広げて勉強する。実技試験課題は、前期「イタリア古典歌曲又はRossini,Donizetti,Bellini,Verdiの歌曲1曲(4分以内)」後期「Rossini,Donizetti,Bellini,Verdiの歌曲1曲（4分以内）」　実技試験の点数をもって評価とする。

学修成果

① 歌唱の技術を理解し、ベルカント唱法の基礎力を向上させることができる。
②イタリア古典歌曲（1792年のRossini生誕以前の作曲者による作品）のレパートリーを作り、演奏法と様式感を理解することができる。
③イタリアベルカントの代表的な作曲家（Rossini,Donizetti,Bellini）及びVerdiの室内歌曲のレパートリーを作り、その演奏法と様式感を理解することができる。

授業展開と内容

第1回	呼吸、発声練習
第2回	共鳴、身体の使い方の練習
第3回	イタリア語ディクション（音読）
第4回	イタリア語ディクション（歌唱）
第5回	正確な音程とリズム
第6回	イタリア古典歌曲及びRossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲の様式感
第7回	イタリア古典歌曲及びRossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲の演奏法
第8回	イタリア語（レチタティーヴォを含む）の正しい発音と歌い方
第9回	歌詞の理解
第10回	歌詞の表現
第11回	時代・様式にあった音楽づくり
第12回	時代・様式にあった表現方法
第13回	前期試験曲の伴奏合わせ
第14回	前期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第15回	前期試験に向けての総合練習
第16回	呼吸、発声技術の向上
第17回	共鳴、身体の使い方の理解と向上
第18回	イタリア語ディクションとポジション（音読）
第19回	イタリア語ディクションとポジション（歌唱）
第20回	正確な音程とリズムを作る能力の向上
第21回	Rossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲の様式感
第22回	Rossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲の演奏法
第23回	イタリア語（レチタティーヴォを含む）の正しい発音と歌い方の向上
第24回	歌詞の理解力の向上と表現
第25回	歌詞の表現力の向上と歌唱
第26回	時代・様式にあった音楽づくりと表現
第27回	時代・様式にあった表現方法と歌唱
第28回	後期試験曲の伴奏合わせ
第29回	後期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第30回	後期試験に向けての総合練習

履修上の注意

実技レッスンであるため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。体調管理を怠らないこと。レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。
オペラアリアを学ぶ場合は作品全体をよく研究すること。毎日の練習を積み上げる努力をすること。
一日１～２時間を目安に予習・復習を行うこと。

教科書・参考書

イタリア古典歌曲集、 Rossini,Donizetti,Bellini,Verdiの歌曲集 その他、担当教員から指示のあった任意の曲集、コンコーネなどの声楽教本など

科目名－クラス名

声楽Ⅰ②

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	2～	通年	6

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は短大での学びの根幹となる主科実技の個人レッスン(週1回60分)である。ベルカント唱法に基いた歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。イタリアベルカントの代表的作曲家及びVerdiまでの室内歌曲の他、日本歌曲、オペラアリアまでを学生の進度、能力に合わせて学んでいく。
実技試験は前期「Rossini,Donizetti,Bellini,Verdiの歌曲1曲(4分以内)」　後期「日本歌曲と自由曲(イタリア語のもの)各1曲(7分以内)」　実技試験の点数をもって評価とする。

学修成果

① 歌唱の技術を理解し、ベルカント唱法の基礎力を向上させることができる。
②イタリアベルカントの代表的な作曲家（Rossini,Donizetti,Bellini）及びVerdiの室内歌曲やオペラアリアのレパートリーを作り、その演奏法と様式感を理解することができる。
③日本歌曲のレパートリーを作ると同時に、詩や曲を通じて日本人の心を深く味わい、それを表現することができる。

授業展開と内容

第1回　呼吸、発声練習
第2回　共鳴、身体の使い方の練習
第3回　イタリア語ディクション（音読）
第4回　イタリア語（歌唱）
第5回　正確な音程とリズム
第6回　イタリア古典歌曲及びRossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲の様式感
第7回　イタリア古典歌曲及びRossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲の演奏法
第8回　イタリア語（レチタティーヴォを含む）の正しい発音と歌い方
第9回　歌詞の理解
第10回　歌詞の表現
第11回　時代・様式にあった音楽づくり
第12回　時代・様式にあった表現方法
第13回　前期試験曲の伴奏合わせ
第14回　前期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第15回　前期試験に向けての総合練習

第16回　呼吸、発声技術の向上
第17回　共鳴、身体の使い方の理解と向上
第18回　イタリア語・日本語 ディクションとポジション（音読）
第19回　イタリア語・日本語 ディクションとポジション（歌唱）
第20回　正確な音程とリズムを作る能力の向上
第21回　Rossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲、オペラアリア及び日本歌曲の様式感
第22回　Rossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲、オペラアリア及び日本歌曲の演奏法
第23回　イタリア語（レチタティーヴォを含む）・日本語の正しい発音と歌い方の向上
第24回　歌詞の理解力の向上と表現
第25回　歌詞の表現力の向上と歌唱
第26回　時代・様式にあった音楽づくりと表現
第27回　時代・様式にあった表現方法と歌唱
第28回　後期試験曲の伴奏合わせ
第29回　後期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）

第30回　後期試験に向けての総合練習

履修上の注意

実技レッスンであるため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。
体調管理を怠らないこと。
レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。
オペラアリアを学ぶ場合は作品全体をよく研究すること。
毎日の練習を積み上げる努力をすること。
一日１～２時間を目安に予習・復習を行うこと。

教科書・参考書

イタリア古典歌曲集、 Rossini,Donizetti,Bellini,Verdiの歌曲集、日本歌曲集 その他、担当教員から指示のあった任意の曲集、コンコーネなどの声楽教本など

科目名－クラス名

声楽Ⅰ②

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	2～	通年	6

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は短大での学びの根幹となる主科実技の個人レッスン(週1回60分)である。ベルカント唱法に基いた歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。イタリアベルカントの代表的作曲家及びVerdiまでの室内歌曲の他、日本歌曲、オペラアリアまでを学生の進度、能力に合わせて学んでいく。
実技試験は前期「Rossini,Donizetti,Bellini,Verdiの歌曲1曲(4分以内)」　後期「日本歌曲と自由曲(イタリア語のもの)各1曲(7分以内)」　実技試験の点数をもって評価とする。

学修成果

① 歌唱の技術を理解し、ベルカント唱法の基礎力を向上させることができる。
②イタリアベルカントの代表的な作曲家（Rossini,Donizetti,Bellini）及びVerdiの室内歌曲やオペラアリアのレパートリーを作り、その演奏法と様式感を理解することができる。
③日本歌曲のレパートリーを作ると同時に、詩や曲を通じて日本人の心を深く味わい、それを表現することができる。

授業展開と内容

第1回　呼吸、発声練習
第2回　共鳴、身体の使い方の練習
第3回　イタリア語ディクション（音読）
第4回　イタリア語（歌唱）
第5回　正確な音程とリズム
第6回　イタリア古典歌曲及びRossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲の様式感
第7回　イタリア古典歌曲及びRossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲の演奏法
第8回　イタリア語（レチタティーヴォを含む）の正しい発音と歌い方
第9回　歌詞の理解
第10回　歌詞の表現
第11回　時代・様式にあった音楽づくり
第12回　時代・様式にあった表現方法
第13回　前期試験曲の伴奏合わせ
第14回　前期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第15回　前期試験に向けての総合練習

第16回　呼吸、発声技術の向上
第17回　共鳴、身体の使い方の理解と向上
第18回　イタリア語・日本語 ディクションとポジション（音読）
第19回　イタリア語・日本語 ディクションとポジション（歌唱）
第20回　正確な音程とリズムを作る能力の向上
第21回　Rossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲、オペラアリア及び日本歌曲の様式感
第22回　Rossini,Donizetti,Bellini,Verdiの室内歌曲、オペラアリア及び日本歌曲の演奏法
第23回　イタリア語（レチタティーヴォを含む）・日本語の正しい発音と歌い方の向上
第24回　歌詞の理解力の向上と表現
第25回　歌詞の表現力の向上と歌唱
第26回　時代・様式にあった音楽づくりと表現
第27回　時代・様式にあった表現方法と歌唱
第28回　後期試験曲の伴奏合わせ
第29回　後期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）

第30回　後期試験に向けての総合練習

履修上の注意

実技レッスンであるため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。
体調管理を怠らないこと。
レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。
オペラアリアを学ぶ場合は作品全体をよく研究すること。
毎日の練習を積み上げる努力をすること。
一日１～２時間を目安に予習・復習を行うこと。

教科書・参考書

イタリア古典歌曲集、 Rossini,Donizetti,Bellini,Verdiの歌曲集、日本歌曲集 その他、担当教員から指示のあった任意の曲集、コンコーネなどの声楽教本など

科目名－クラス名

声楽Ⅰ③

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	3～	通年	6

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は大学での学びの根幹となる主科実技の個人レッスン(週1回60分)である。ベルカント唱法に基いた歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。2年次までの歌曲に加え、学生個々の能力・進度に合わせてオペラアリア、近代歌曲など範囲を広げて学んでいく。実技試験課題は、前期・後期とも「自由曲1曲(イタリア語のもの)(5分以内）※オペラアリアの場合、Verdi以降の作品は除く」
試験の点数をもって評価とする。

学修成果

①歌唱の技術を理解し、ベルカントに基いた歌唱力を向上させることができる。
②各々の楽器(声)に合った歌曲やオペラアリアのレパートリーを作り、その演奏法と様式感を身につけることができる。
③レチタティーヴォの歌い方を覚え、身につけることができる。

授業展開と内容

第1回　呼吸、発声練習
第2回　共鳴、身体の使い方の練習
第3回　イタリア語ディクション（音読）
第4回　イタリア語ディクション（歌唱）
第5回　レチタティーヴォの歌い方（レチタティーヴォ・セッコ）
第6回　レチタティーヴォの歌い方（レチタティーヴォ・アッコンパニャート）
第7回　カデンツァ・修飾音などの歌い方
第8回　アジリタ・ポルタメントなどの歌い方
第9回　歌詞・作品の理解
第10回　歌詞・作品の理解と表現
第11回　時代・様式にあった音楽づくり
第12回　時代・様式にあった表現方法
第13回　前期試験曲の伴奏合わせ
第14回　前期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第15回　前期試験に向けての総合練習

第16回　呼吸、発声技術の向上
第17回　共鳴、身体の使い方の向上
第18回　イタリア語ディクションの向上（音読）
第19回　イタリア語ディクションの向上（歌唱）
第20回　レチタティーヴォの歌い方の向上（レチタティーヴォ・セッコ
第21回　レチタティーヴォの歌い方の向上（レチタティーヴォ・アッコンパニャート）
第22回　カデンツァ・修飾音などの歌い方（ロマン派の楽曲に多用される様々な形）
第23回　アジリタ・ポルタメントなどの歌い方（ロマン派の楽曲に多用される様々な形）
第24回　歌詞・作品の理解力の向上
第25回　歌詞・作品の理解と表現力の向上
第26回　時代・様式にあった音楽づくりの向上
第27回　時代・様式にあった表現方法の向上
第28回　後期試験曲の伴奏合わせ
第29回　後期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第30回　後期試験に向けての総合練習

履修上の注意

実技レッスンのため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。
体調管理を怠らないこと。実技試験でオペラアリアを歌う場合Verdi以降の作品は除くこと。
レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。
オペラアリアを学ぶ場合は作品全体をよく研究すること。
毎日の練習を積み上げる努力をすること。
一日１～２時間を目安に予習・復習を行うこと。

教科書・参考書

担当教員から指示のあった任意の歌曲集、アリア集など

科目名－クラス名

声楽Ⅰ③

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	3～	通年	6

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は大学での学びの根幹となる主科実技の個人レッスン(週1回60分)である。ベルカント唱法に基いた歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。2年次までの歌曲に加え、学生個々の能力・進度に合わせてオペラアリア、近代歌曲など範囲を広げて学んでいく。実技試験課題は、前期・後期とも「自由曲1曲(イタリア語のもの)(5分以内）※オペラアリアの場合、Verdi以降の作品は除く」
試験の点数をもって評価とする。

学修成果

①歌唱の技術を理解し、ベルカントに基いた歌唱力を向上させることができる。
②各々の楽器(声)に合った歌曲やオペラアリアのレパートリーを作り、その演奏法と様式感を身につけることができる。
③レチタティーヴォの歌い方を覚え、身につけることができる。

授業展開と内容

第1回	呼吸、発声練習
第2回	共鳴、身体の使い方の練習
第3回	イタリア語ディクション（音読）
第4回	イタリア語ディクション（歌唱）
第5回	レチタティーヴォの歌い方（レチタティーヴォ・セッコ）
第6回	レチタティーヴォの歌い方（レチタティーヴォ・アッコンパニャート）
第7回	カデンツァ・修飾音などの歌い方
第8回	アジリタ・ポルタメントなどの歌い方
第9回	歌詞・作品の理解
第10回	歌詞・作品の理解と表現
第11回	時代・様式にあった音楽づくり
第12回	時代・様式にあった表現方法
第13回	前期試験曲の伴奏合わせ
第14回	前期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第15回	前期試験に向けての総合練習
第16回	呼吸、発声技術の向上
第17回	共鳴、身体の使い方の向上
第18回	イタリア語ディクションの向上（音読）
第19回	イタリア語ディクションの向上（歌唱）
第20回	レチタティーヴォの歌い方の向上（レチタティーヴォ・セッコ
第21回	レチタティーヴォの歌い方の向上（レチタティーヴォ・アッコンパニャート）
第22回	カデンツァ・修飾音などの歌い方（ロマン派の楽曲に多用される様々な形）
第23回	アジリタ・ポルタメントなどの歌い方（ロマン派の楽曲に多用される様々な形）
第24回	歌詞・作品の理解力の向上
第25回	歌詞・作品の理解と表現力の向上
第26回	時代・様式にあった音楽づくりの向上
第27回	時代・様式にあった表現方法の向上
第28回	後期試験曲の伴奏合わせ
第29回	後期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第30回	後期試験に向けての総合練習

履修上の注意

実技レッスンのため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。
体調管理を怠らないこと。実技試験でオペラアリアを歌う場合Verdi以降の作品は除くこと。
レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。
オペラアリアを学ぶ場合は作品全体をよく研究すること。
毎日の練習を積み上げる努力をすること。
一日１～２時間を目安に予習・復習を行うこと。

教科書・参考書

担当教員から指示のあった任意の歌曲集、アリア集など

科目名－クラス名

声楽Ⅰ④

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	4～	通年	6

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は大学での学びの根幹となる主科実技の個人レッスン(週1回60分)である。ベルカント唱法に基いた歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。学生個々の声種・能力・進度に合わせてオペラアリア、近代歌曲、日本歌曲など幅広いレパートリーを学んでいく。
実技試験課題は、前期「自由曲1曲(イタリア語のもの)(6分以内）※オペラアリアの場合、Verdi以降の作品は除く」後期「イタリア歌曲または日本歌曲と自由曲（イタリア語）各1曲（10分以内）」　　試験の点数をもって評価とする。

学修成果

①歌唱の技術を理解し、ベルカントに基いた歌唱力を更に向上させることができる。
②各々の楽器(声)に合った歌曲（日本歌曲を含む）やオペラアリアのレパートリーを作り、様式感のある演奏法と表現力を身につけることができる。

授業展開と内容

第1回　呼吸、発声技術の向上
第2回　共鳴、身体の使い方の向上
第3回　イタリア語ディクション力の向上（音読）
第4回　イタリア語ディクション力の向上（歌唱）
第5回　レチタティーヴォの歌い方の向上（レチタティーヴォ・セッコ）
第6回　レチタティーヴォの歌い方の向上（レチタティーヴォ・アッコンパニャート）
第7回　カデンツァ・修飾音などの歌唱技術の向上
第8回　アジリタ・ポルタメントなどの歌唱技術の向上
第9回　歌詞・作品の理解力の向上
第10回　歌詞・作品の理解と表現力の向上
第11回　時代・様式にあった音楽づくりの向上
第12回　時代・様式にあった表現方法の向上
第13回　前期試験曲の伴奏合わせ
第14回　前期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第15回　前期試験に向けての総合練習

第16回　呼吸、発声技術の更なる鍛錬
第17回　共鳴、身体の使い方の更なる鍛錬
第18回　イタリア語・日本語 ディクション力の習得（音読）
第19回　イタリア語・日本語 ディクション力の習得（歌唱）
第20回　レチタティーヴォの歌い方の習得（レチタティーヴォ・セッコ）
第21回　レチタティーヴォの歌い方の習得（レチタティーヴォ・アッコンパニャート）
第22回　カデンツァ・修飾音などの歌唱技術の向上（ロマン派の楽曲に多用される様々な形）
第23回　アジリタ・ポルタメントなどの歌唱技術の向上（ロマン派の楽曲に多用される様々な形）
第24回　歌詞・作品の理解力の習得
第25回　歌詞・作品の理解と表現力の習得
第26回　時代・様式にあった音楽づくりの習得
第27回　時代・様式にあった表現方法の習得
第28回　後期試験曲の伴奏合わせ
第29回　後期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第30回　後期試験に向けての総合練習

履修上の注意

実技レッスンのため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。
体調管理を怠らないこと。
実技試験でオペラアリアを歌う場合Verdi以降の作品は除くこと。
レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。
オペラアリアを学ぶ場合は作品全体をよく研究すること。
毎日の練習を積み上げる努力をすること。
一日１～２時間を目安に予習・復習を行うこと。

教科書・参考書

担当教員から指示のあった任意の歌曲集、アリア集など

科目名－クラス名

声楽Ⅰ④

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	4～	通年	6

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は大学での学びの根幹となる主科実技の個人レッスン(週1回60分)である。ベルカント唱法に基いた歌唱の技術を学び体得していくことを目標とする。学生個々の声種・能力・進度に合わせてオペラアリア、近代歌曲、日本歌曲など幅広いレパートリーを学んでいく。
実技試験課題は、前期「自由曲1曲(イタリア語のもの)(6分以内）※オペラアリアの場合、Verdi以降の作品は除く」後期「イタリア歌曲または日本歌曲と自由曲（イタリア語）各1曲（10分以内）」　　試験の点数をもって評価とする。

学修成果

①歌唱の技術を理解し、ベルカントに基いた歌唱力を更に向上させることができる。
②各々の楽器(声)に合った歌曲（日本歌曲を含む）やオペラアリアのレパートリーを作り、様式感のある演奏法と表現力を身につけることができる。

授業展開と内容

第1回　呼吸、発声技術の向上
第2回　共鳴、身体の使い方の向上
第3回　イタリア語ディクション力の向上（音読）
第4回　イタリア語ディクション力の向上（歌唱）
第5回　レチタティーヴォの歌い方の向上（レチタティーヴォ・セッコ）
第6回　レチタティーヴォの歌い方の向上（レチタティーヴォ・アッコンパニャート）
第7回　カデンツァ・修飾音などの歌唱技術の向上
第8回　アジリタ・ポルタメントなどの歌唱技術の向上
第9回　歌詞・作品の理解力の向上
第10回　歌詞・作品の理解と表現力の向上
第11回　時代・様式にあった音楽づくりの向上
第12回　時代・様式にあった表現方法の向上
第13回　前期試験曲の伴奏合わせ
第14回　前期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第15回　前期試験に向けての総合練習

第16回　呼吸、発声技術の更なる鍛錬
第17回　共鳴、身体の使い方の更なる鍛錬
第18回　イタリア語・日本語 ディクション力の習得（音読）
第19回　イタリア語・日本語 ディクション力の習得（歌唱）
第20回　レチタティーヴォの歌い方の習得（レチタティーヴォ・セッコ）
第21回　レチタティーヴォの歌い方の習得（レチタティーヴォ・アッコンパニャート）
第22回　カデンツァ・修飾音などの歌唱技術の向上（ロマン派の楽曲に多用される様々な形）
第23回　アジリタ・ポルタメントなどの歌唱技術の向上（ロマン派の楽曲に多用される様々な形）
第24回　歌詞・作品の理解力の習得
第25回　歌詞・作品の理解と表現力の習得
第26回　時代・様式にあった音楽づくりの習得
第27回　時代・様式にあった表現方法の習得
第28回　後期試験曲の伴奏合わせ
第29回　後期試験曲の伴奏合わせ（暗譜）
第30回　後期試験に向けての総合練習

履修上の注意

実技レッスンのため、上記の授業展開は必ずしも学修の順序ではなく、個々の能力や進度によって何度も戻ったり、繰り返されたり、同時に進められたりするものであることを理解して臨むこと。
体調管理を怠らないこと。
実技試験でオペラアリアを歌う場合Verdi以降の作品は除くこと。
レッスンには伴奏譜の他、必要に応じて辞書など指示のあったものを用意すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

譜読みだけでなく楽譜を読み込む勉強をし、その楽曲で知り得る予習は全てしておくこと。
オペラアリアを学ぶ場合は作品全体をよく研究すること。
毎日の練習を積み上げる努力をすること。
一日１～２時間を目安に予習・復習を行うこと。

教科書・参考書

担当教員から指示のあった任意の歌曲集、アリア集など

2022年度(後期・通年)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：0424　教員名：中村　佳子

１）評価結果に対する所見

「オペラ演習Ⅰ②」は今年から担当した新しい授業であり始めは手探りの部分もあったが、Ⅰ③の経験から、オペラを学ぶ基礎として必要な「心身の解放」をメインに授業を組み立てた。履修学生は留学生も含め大変意欲のあるメンバーであり、彼らの取り組みを見ながら、私たちもシラバス以上の発想を得て、この新しい授業を共に創ることができたと感じている。多少シラバスとは違う内容の回もあったが、一定の評価を得られたこと、この授業を楽しいと感じてもらったことを嬉しく思う。「聴音・視唱ソルフェージュ②」はＡ・Ｂクラスとも真面目によく取り組んだ。コロナ禍により、残念ながら今年も視唱の部分にあまり言及はできず、他の様々な課題を使って運用を工夫したが、特にＢクラスは履修者のレヴェルが高かったためあまり満足のいく授業ではなかったのではないかと感じている。主科である「声楽実技」は大変高い評価を得ることが出来た。多様な学生がいるが、皆歌うことに高いモティベーションを持っており、厳しい条件の中でも一生懸命に取り組んだと思う。これからもこの気持ちに応えられるよう努力したいと強く思う。

２）要望への対応・改善方策

「声楽実技」はひとりひとりの個性と能力、目標や目的を認識し個々にあった指導を継続することに真摯に向かい合っていきたい。歌うことだけでなく個々の気持ちに寄り添い耳を傾けることを基本におきながら、問題意識を引き出して、自ら学ぶ姿勢を育てて行きたいと思う。「聴音・視唱ソルフェージュ②」は履修する学生のレヴェルを見て副教材を選定し、興味や関心を持って臨める授業を展開したい。力のあるクラスでは１時限で行う課題の数を増やし授業の展開を早くする工夫をする。「オペラ演習 1②」は初年度の経験を活かし、更に学生たちの自主性と協調性を引き出せるよう、創造性のある楽しい授業を展開したいと思っている。

３）今後の課題

多様な背景を持つ学生に対する柔軟な対応力、時代に合った授業を組み立てる発想力を持つことが求められていると思う。出席不良や、様々な理由でこぼれていく学生を早期に発見しサポートすると共に、新しい時代の大学を考える視点を以って授業を運営することが重要である。

以　上